

第 10 次 芦屋すこやか長寿プラン 21 策定に向けたアンケート調査結果報告書 <概要版（案）>

I 調査の概要

<介護予防・日常生活圏域二一ズ調査>

調査対象	市内在住の 65 歳以上の方 3,000 人（無作為抽出）
調査方法	郵送による配布、郵送・WEB による回収
調査期間	令和 5 年 2 月 1 日～2 月 15 日 （2 月 8 日にリマインドを行い、2 月 22 日まで延長して回収）
回収状況	有効回答数 2,008 件（郵送回答 1,872 件、WEB 回答 136 件） 有効回収率 66.9% ※前回調査（令和 2 年）73.6%

<在宅介護実態調査>

調査対象	市内在住の要支援・要介護認定者 2,000 人（無作為抽出） ※施設サービス利用者を除く
調査方法	郵送による配布、郵送・WEB による回収
調査期間	令和 5 年 2 月 1 日～2 月 15 日 （2 月 8 日にリマインドを行い、2 月 22 日まで延長して回収）
回収状況	有効回答数 1,176 件（郵送回答 1,107 件、WEB 回答 69 件） 有効回収率 58.8% ※前回調査（令和 2 年）59.0%

<報告書の見方>

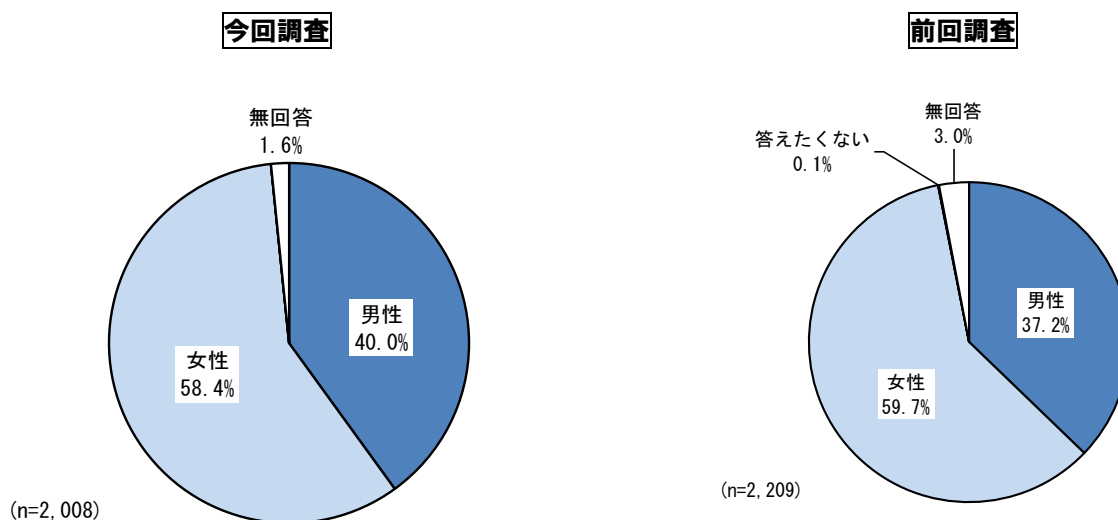
- （1）図表中の「n（number of case）」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。
- （2）回答結果の割合「%」は有効標本数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第 2 位で四捨五入したものです。そのため、単数回答であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。
- （3）複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。
- （4）図表中に次のような表示などがある場合は、複数回答を依頼した質問を示しています。
 - ・ M A %（Multiple Answer）：回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合
 - ・ 3 L A %（3 Limited Answer）：回答選択肢の中からあてはまるものを 3 つ以内で選択する場合上記以外の場合は、特に断りがない限り、単数回答（回答選択肢の中からあてはまるものを 1 つだけ選択する）形式の設問です。
- （5）図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。

Ⅱ 調査結果

1. 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

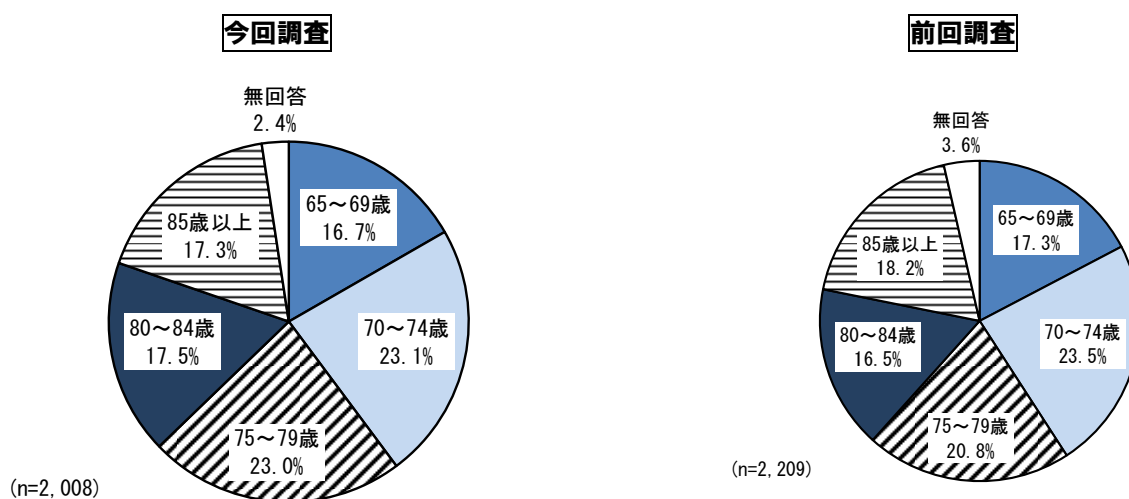
◆調査対象者の基本属性

【性別】



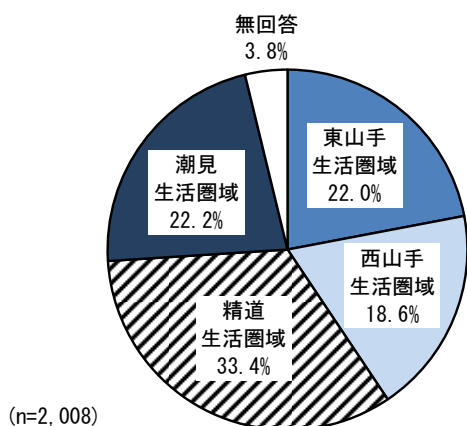
【年齢】

「前期高齢者」(65~74歳)が39.8%、「後期高齢者」(75歳以上)が57.8%で、前回調査に比べて「後期高齢者」が2.3ポイント増加しています。

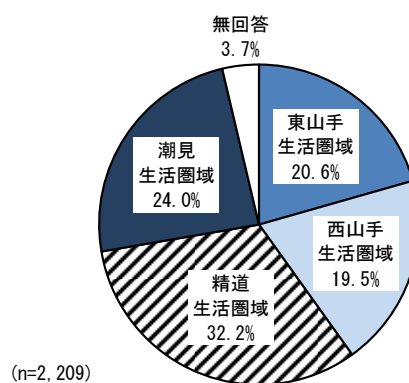


【居住地域】

今回調査



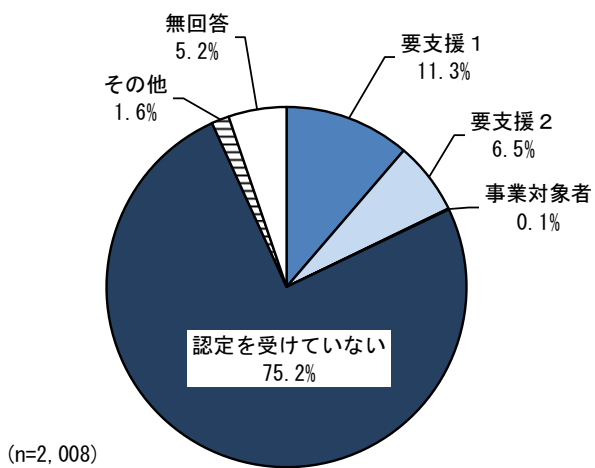
前回調査



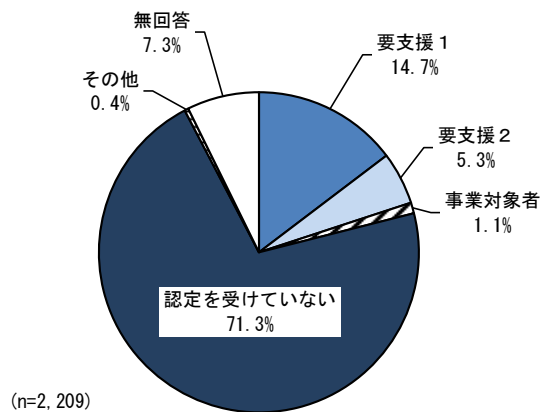
【要介護認定状況】

「要支援認定者」(要支援 1、2) は 17.8% で、前回調査に比べて 2.2 ポイント減少しています。

今回調査



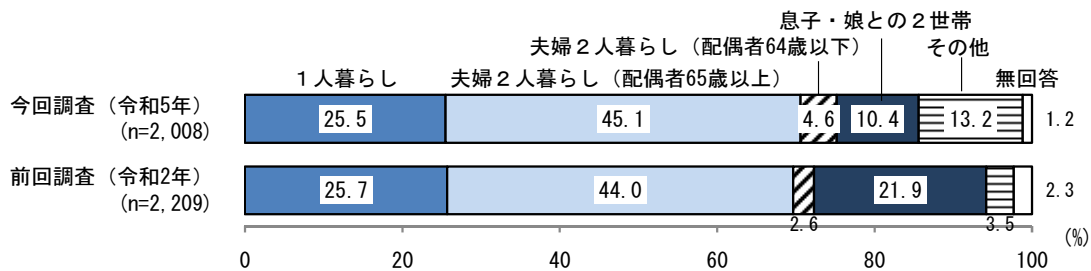
前回調査



◆家族や生活状況

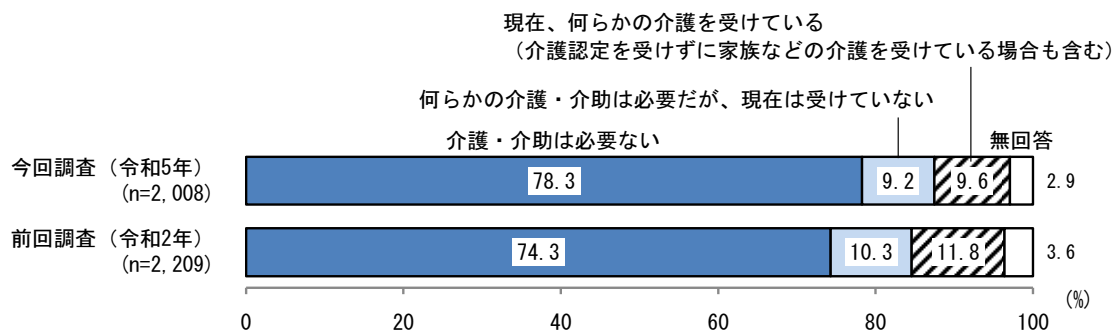
【問1(1):家族構成】

「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が45.1%、「1人暮らし」が25.5%となっています。



【問1(2):介護・介助の必要性】

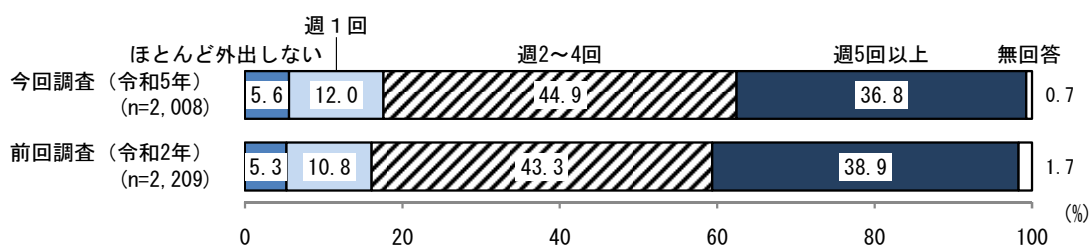
介護・介助の必要な人は合計18.8%と、前回調査に比べて3.3ポイント減少しています。



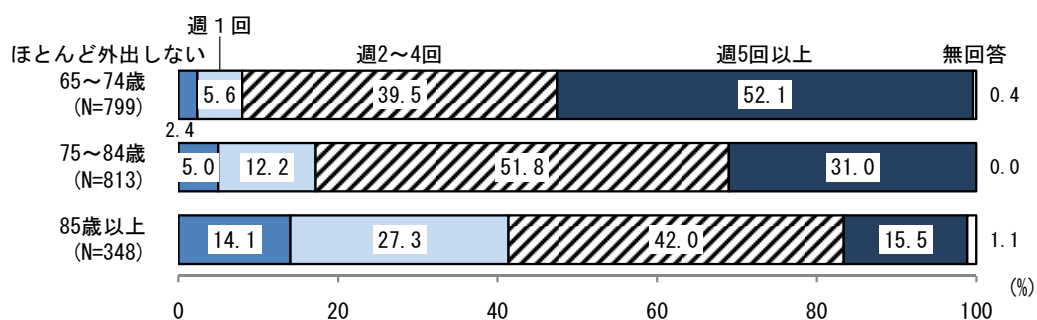
◆外出について

【問2(6):1週間の外出回数】

外出回数が『週1回以下』（「週1回」、「ほとんど外出しない」）は合計17.6%で、前回調査に比べて1.5ポイント増加しています。85歳以上では『週1回以下』が4割強となっています。



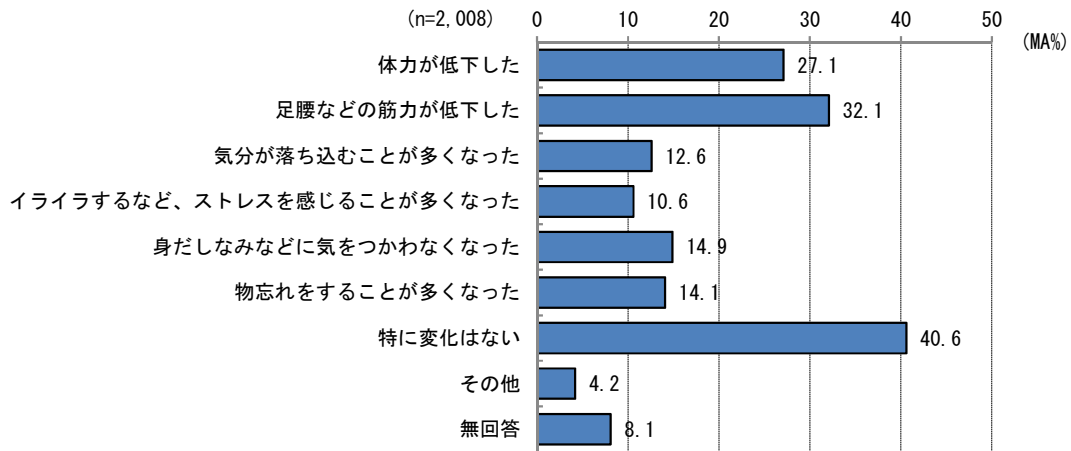
【1週間の外出回数 年齢別】



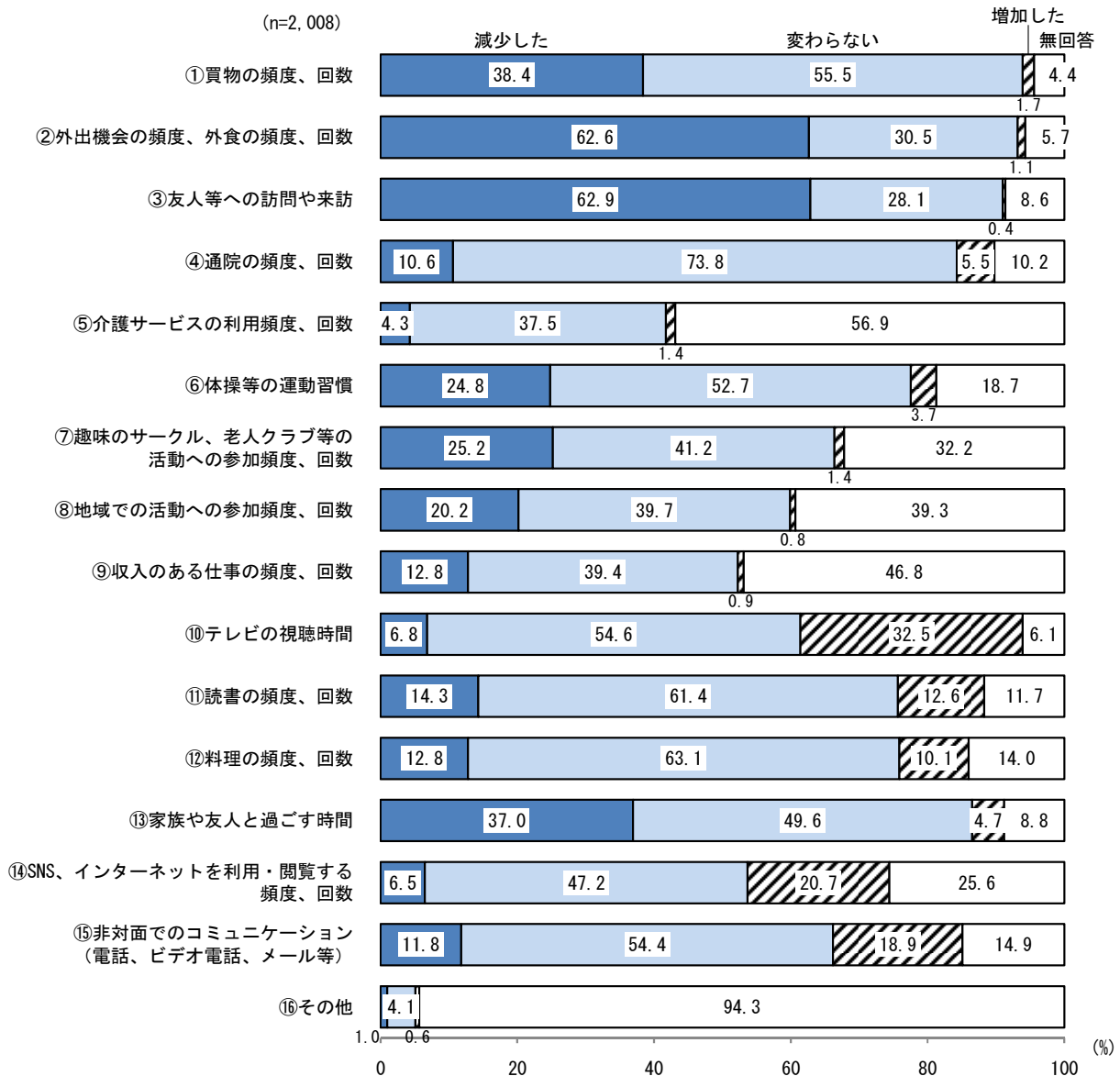
◆新型コロナウイルス感染症が与えた影響

【問3(1)、(2):新型コロナウイルス感染症が心身や日常生活に与えた影響】

心身に与えた影響では、「体力が低下した」、「足腰などの筋力が低下した」が3割前後みられます。



日常生活に与えた影響では、「外出機会の頻度、外食の頻度、回数」、「友人等への訪問や来訪」で「減少した」が6割と多くなっています。

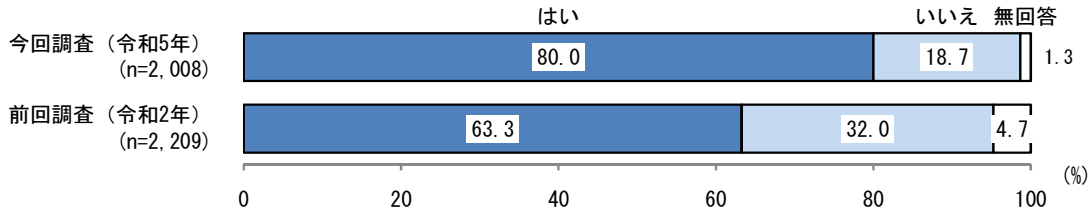


◆情報通信機器の所持状況および利用状況

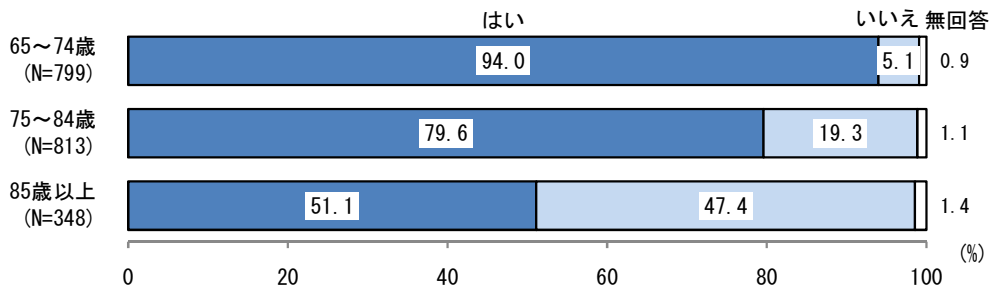
【問 5(12):スマートフォンまたはタブレットの所持】

スマートフォンまたはタブレットを持っている（「はい」）は80.0%で、前回調査に比べて16.7ポイント増加しています。

年齢別にみると、「前期高齢者」（65～74歳）の所持率は94.0%、85歳以上でも半数の人が所持しています。

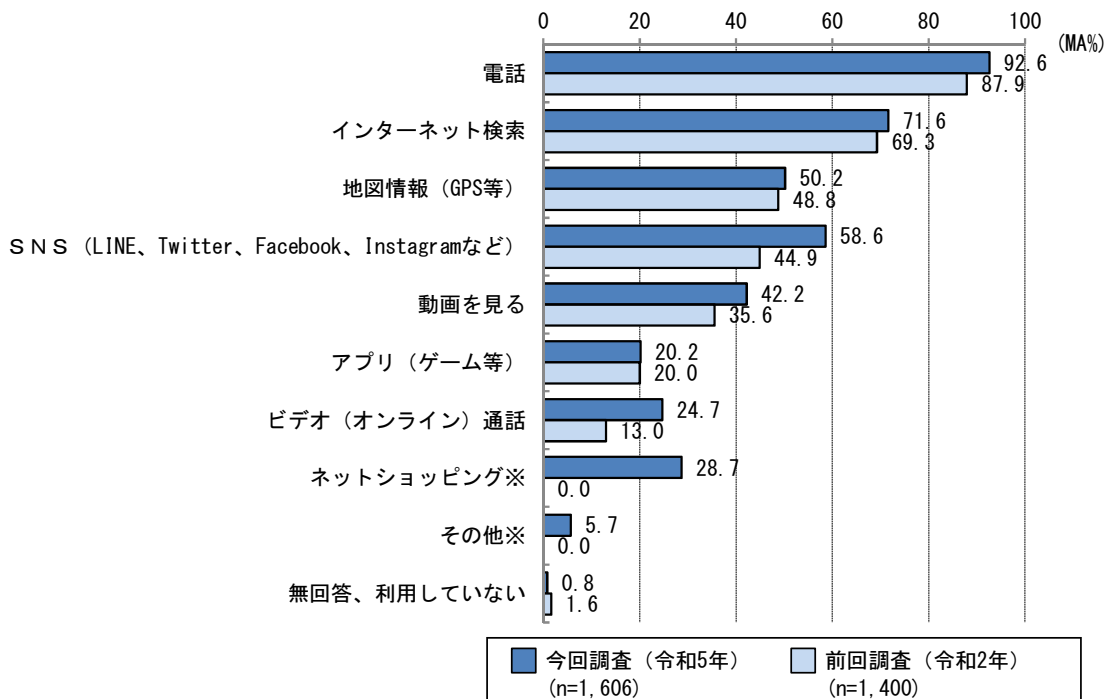


【スマートフォンまたはタブレットの所持 年齢別】



【問 5(12)-1:スマートフォンまたはタブレットで利用する機能】

「電話」として使う人が92.6%、「インターネット検索」が71.6%で、すべての項目で前回調査より利用が増えています。とくに、「SNS」は58.6%と13.7ポイント増加しています。



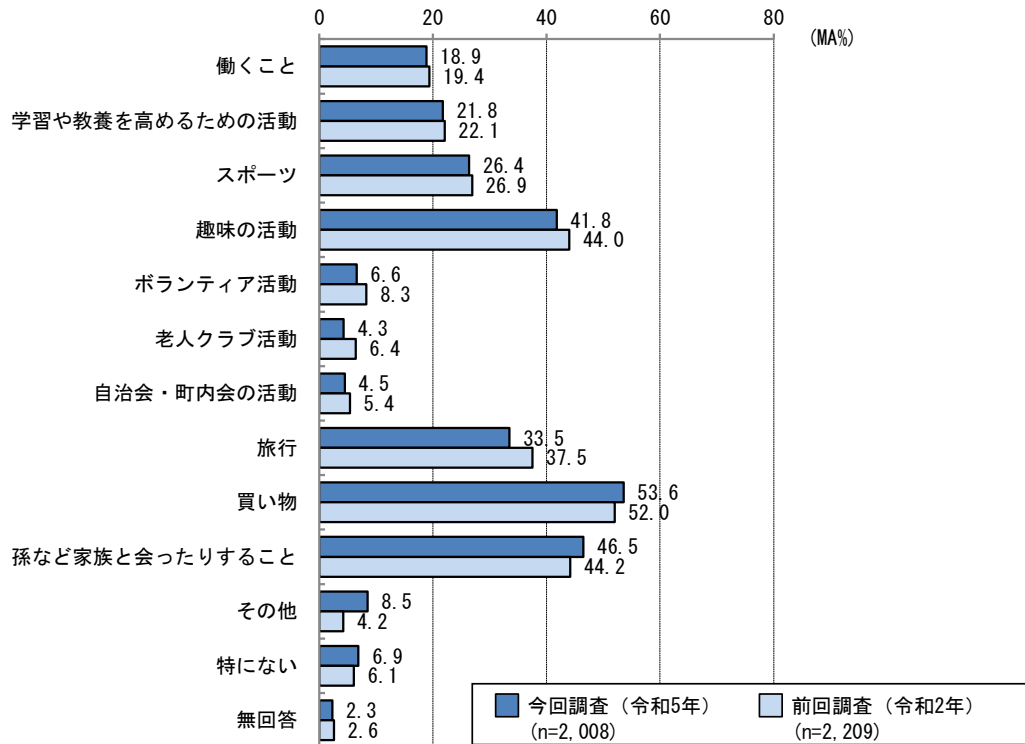
※前回調査では、項目なし

◆日常生活の中での楽しみ

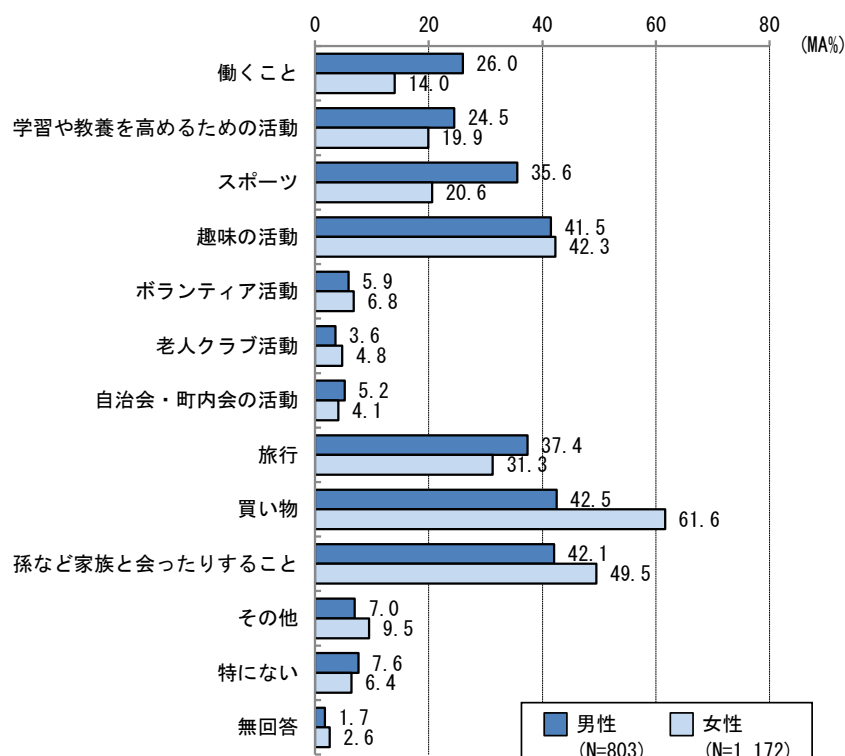
【問 5(18):日常生活の中での楽しみ】

「買い物」が53.6%と最も多く、次いで、「孫など家族と会ったりすること」が46.5%、「趣味の活動」が41.8%となっています。

性別にみると、男女ともに「買い物」が最も多くなっていますが、女性が男性に比べて19.1ポイント多くなっています。一方、「スポーツ」、「働くこと」、「学習や教養を高めるための活動」、「旅行」などでは男性のほうが女性より多くなっています。



【日常生活の中での楽しみ 性別】

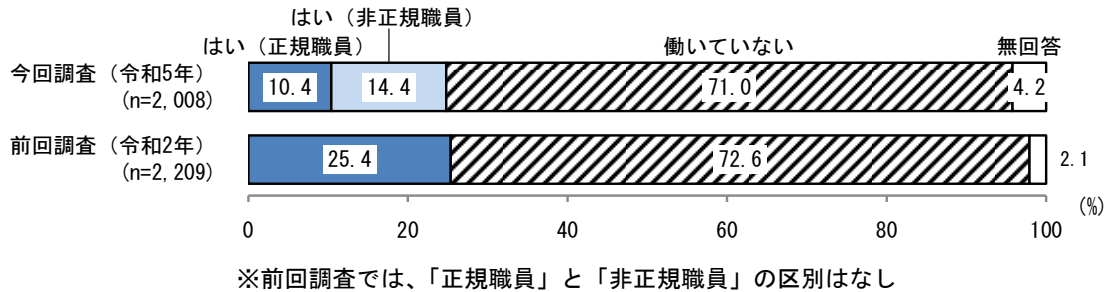


◆就労について

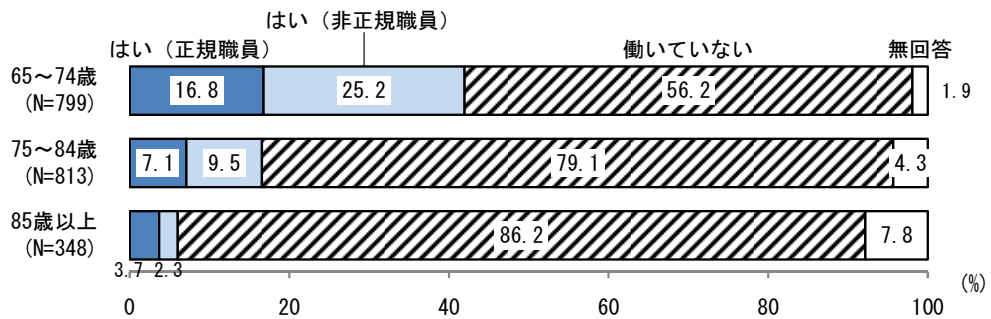
【問 5(19):就労状況】

就労している（「はい」）の割合は、正規職員、非正規職員を合わせて 24.8%と、前回調査（25.4%）に比べて大きな差はみられません。

年齢別にみると、「前期高齢者」（65～74 歳）では 42.0%が就労している（「はい」）と回答しています。

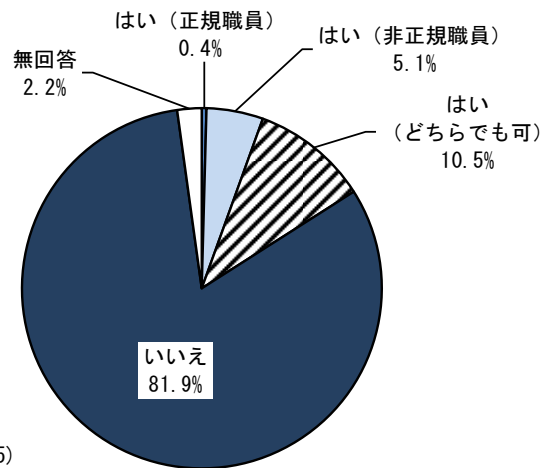


【就労状況 年齢別】

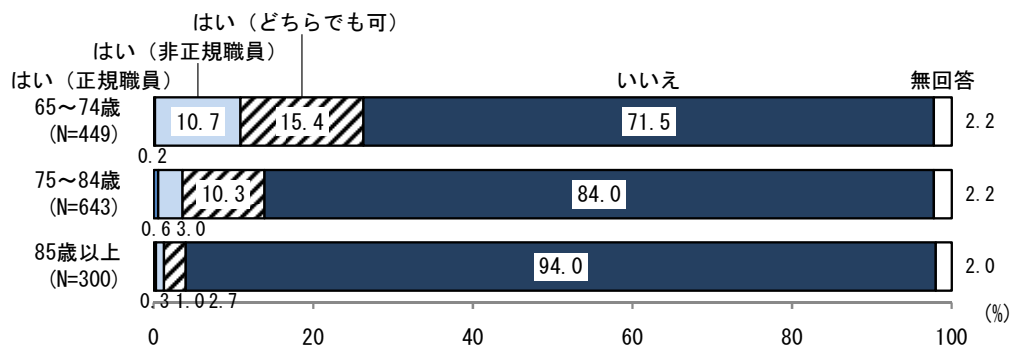


【問 5(19)-1:今後の就労意向】

今後、就労意向がある（「はい」）の割合は合計 16.0%で、「前期高齢者」（65～74 歳）では 26.3%となっています。

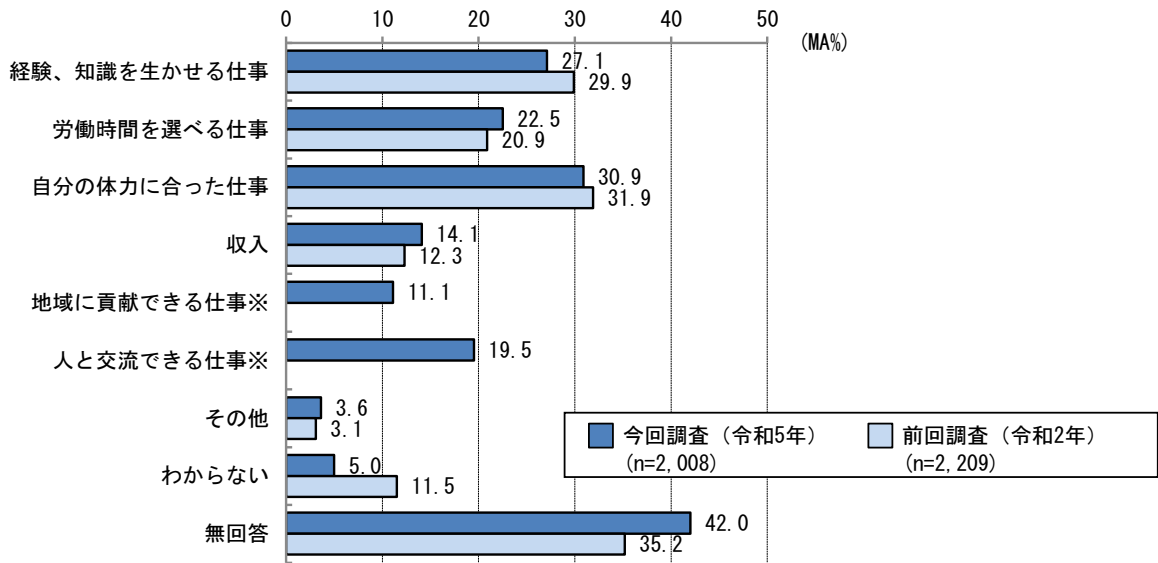


【今後の就労意向 年齢別】



【問 5(20):働き方で重視する条件】

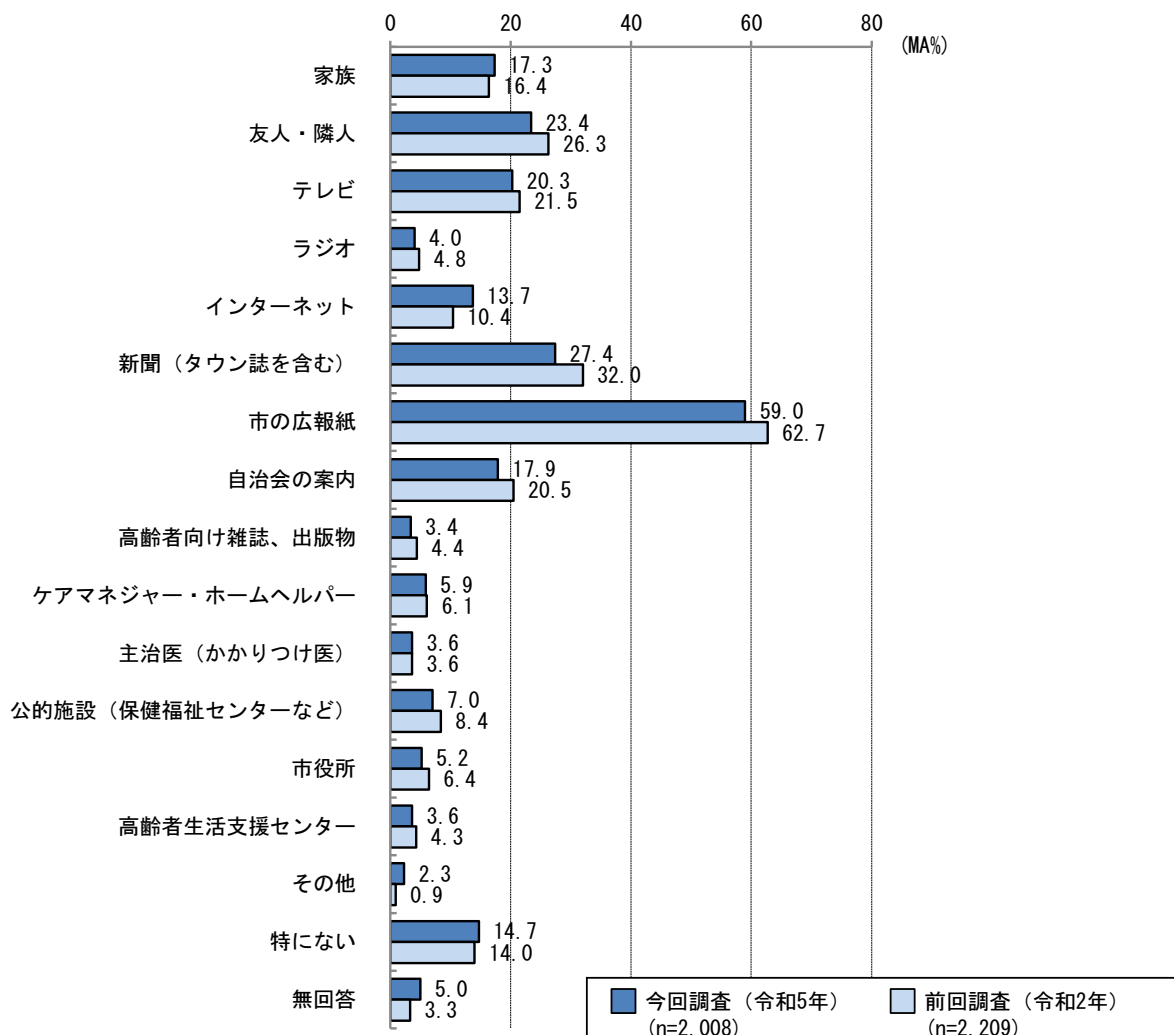
「自分の体力にあった仕事」が 30.9%と最も多く、次いで、「経験、知識を生かせる仕事」が 27.1%、「労働時間を選べる仕事」が 22.5%となっています。



※前回調査では、選択肢なし

【問 5(22):高齢者向けのイベントやサービスに関する情報の入手先】

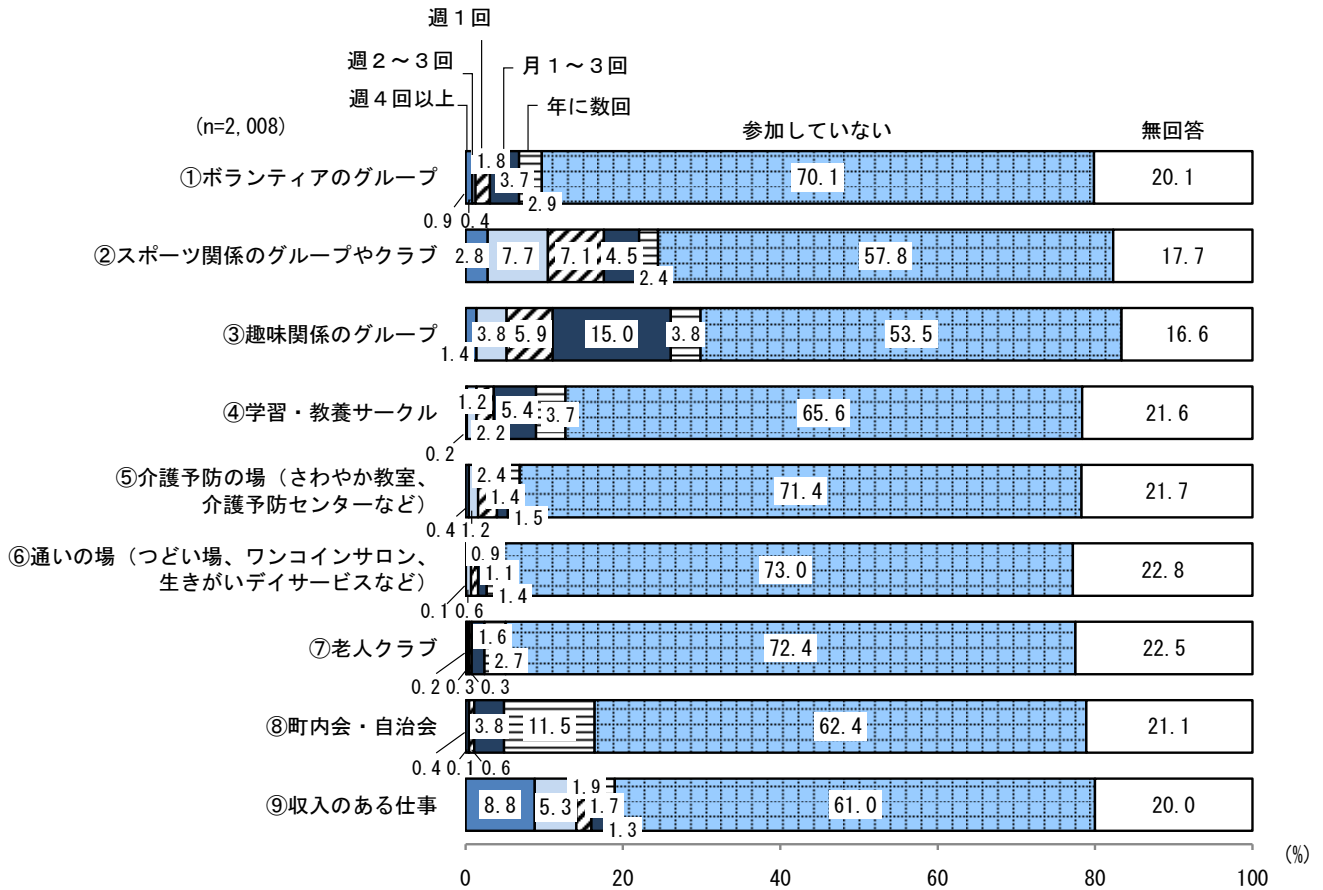
「市の広報紙」が 59.0%と最も多くなっていますが、前回調査に比べて 3.7 ポイント減少しています。一方、「インターネット」は前回調査に比べて 3.3 ポイント増加しています。



◆地域の会・グループ活動等への参加

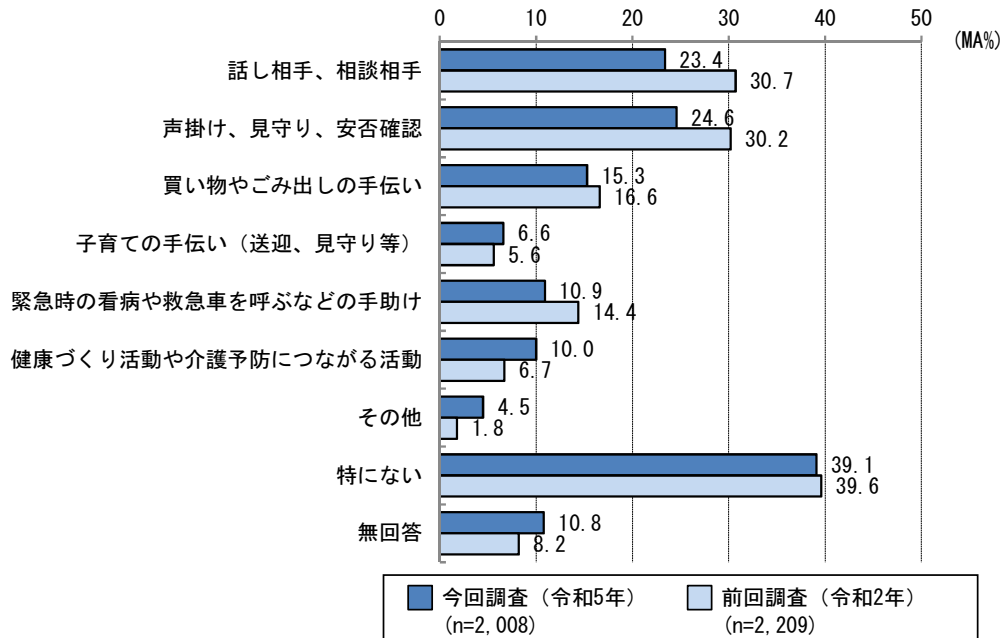
【問 6(1):地域の会・グループ活動等への参加状況】

地域の会・グループ活動等への参加について、「週4回以上」から「年に数回」までを合わせた『参加している』は、「③趣味関係のグループ」が29.9%と最も多く、次いで、「②スポーツ関係のグループやクラブ」が24.5%、「⑨収入のある仕事」が19.0%となっています。



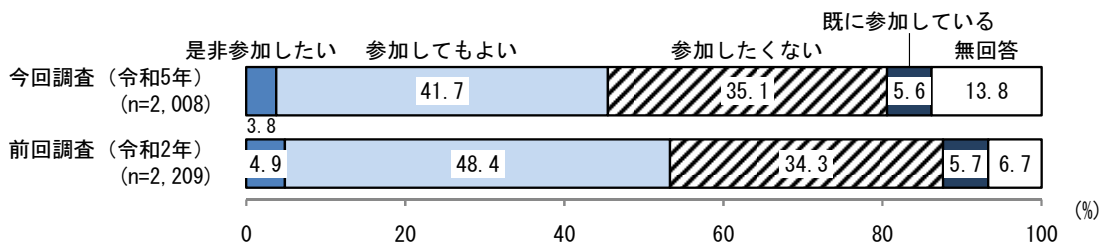
【問 6(2):地域でお手伝いできること】

「声掛け、見守り、安否確認」が24.6%と最も多く、次いで、「話し相手、相談相手」が23.4%となっていますが、前回調査に比べて、「声掛け、見守り、安否確認」で5.6ポイント、「話し相手、相談相手」で7.3ポイント減少しています。また、「特にない」が39.1%と4割近くを占めています。



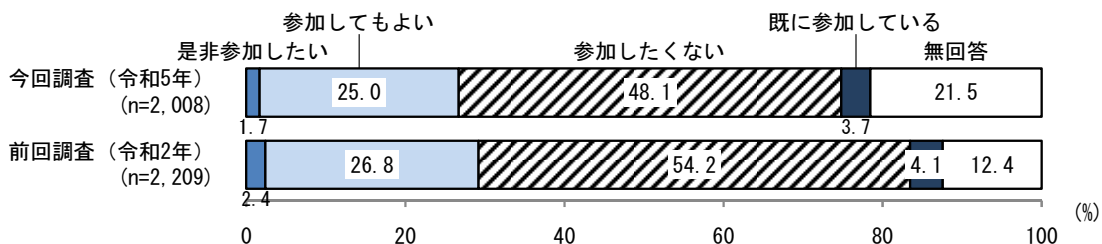
【問 6(3):地域の会・グループ活動等への参加者としての参加意向】

地域の会・グループ活動等への参加者としての参加意向については、「是非参加したい」が3.8%、「参加してもよい」が41.7%で、「既に参加している」の5.6%も合わせて、『参加意向あり』は合計51.1%となっています。



【問 6(4):地域の会・グループ活動等への企画・運営としての参加意向】

地域の会・グループ活動等への企画・運営(お世話役)としての参加意向は、「是非参加したい」が1.7%、「参加してもよい」が25.0%で、「既に参加している」の3.7%も合わせて、『参加意向あり』は合計30.4%となっています。

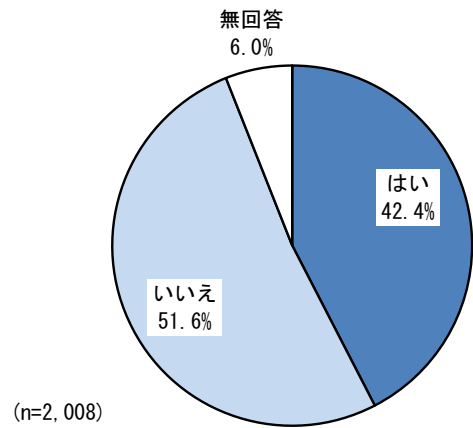


◆高齢者生活支援センターの認知と利用

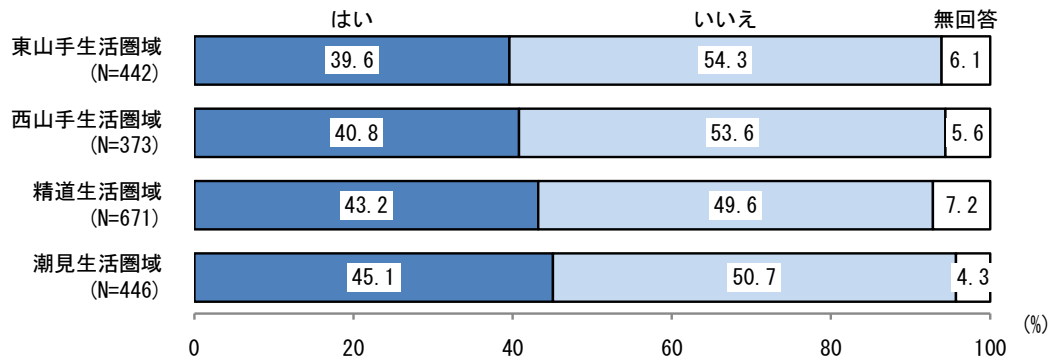
【問 7(6):高齢者生活支援センターの認知】

高齢者生活支援センターを「知っている」(「はい」)は42.4%、「知らない」(「いいえ」)は51.6%となっています。

居住地域別にみると、「知っている」(「はい」)は潮見生活圏域で45.1%と最も多く、東山手生活圏域では39.6%とやや少なくなっています。



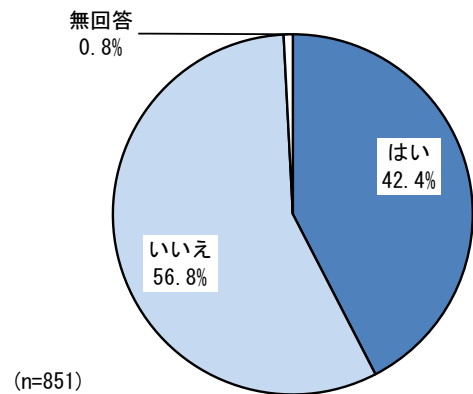
【高齢者生活支援センターの認知 居住地域別】



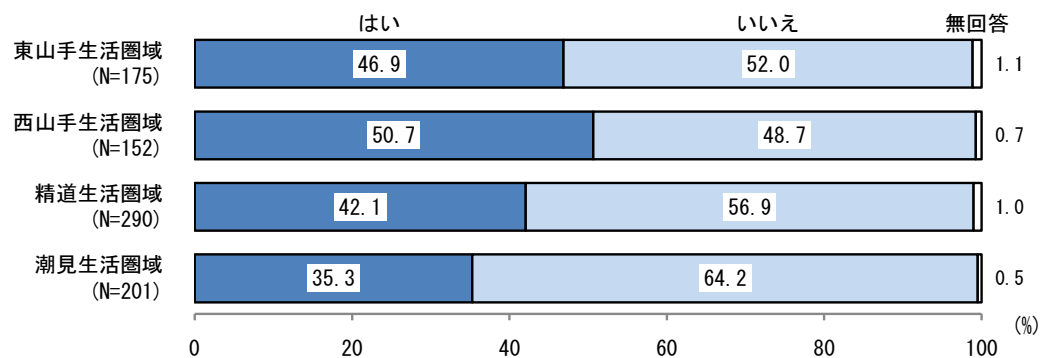
【問 7(6)-1:高齢者生活支援センターの利用】 ※問 7(6) で「はい (知っている)」と回答した人のみ

高齢者生活支援センターを「知っている」と回答した人のうち、「利用したことがある」(「はい」)は42.4%となっています。

居住地域別にみると、「利用したことがある」(「はい」)は西山手生活圏域で50.7%と最も多く、潮見生活圏域では35.3%と少なくなっています。



【高齢者生活支援センターの利用 居住地域別】

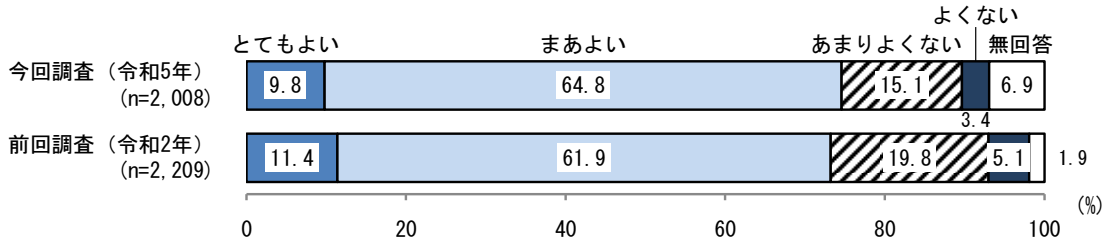


◆現在の健康状態

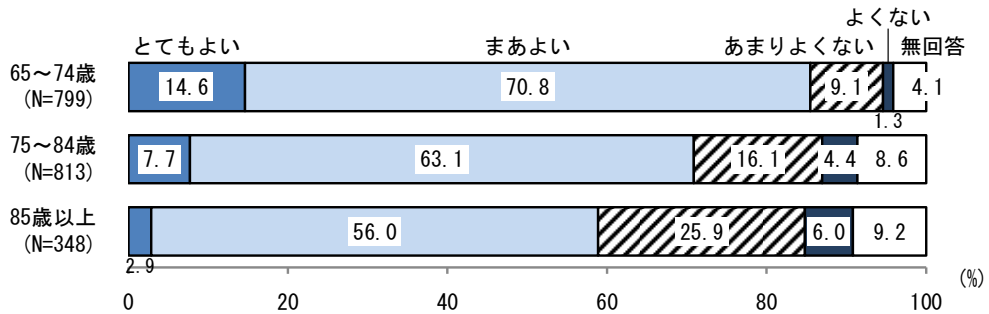
【問 8(1):現在の健康状態】

現在の健康状態については、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた『よい』が合計 74.6%、「よくない」と「あまりよくない」を合わせた『よくない』が合計 18.5%となっています。前回調査に比べて、『よい』が 1.3 ポイント増加しています。

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて『よい』の割合は少なくなっていますが、85 歳以上でも 6 割近くの人が『よい』と回答しています。



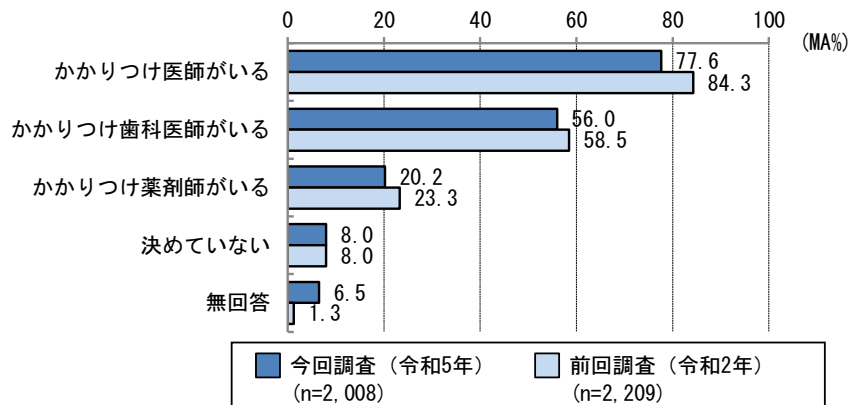
【現在の健康状態 年齢別】



◆かかりつけ医等の状況

【問 8(6):かかりつけ医等の状況】

「かかりつけ医師がいる」が 77.6%と最も多くなっていますが、前回調査に比べて 6.7 ポイント減少しています。

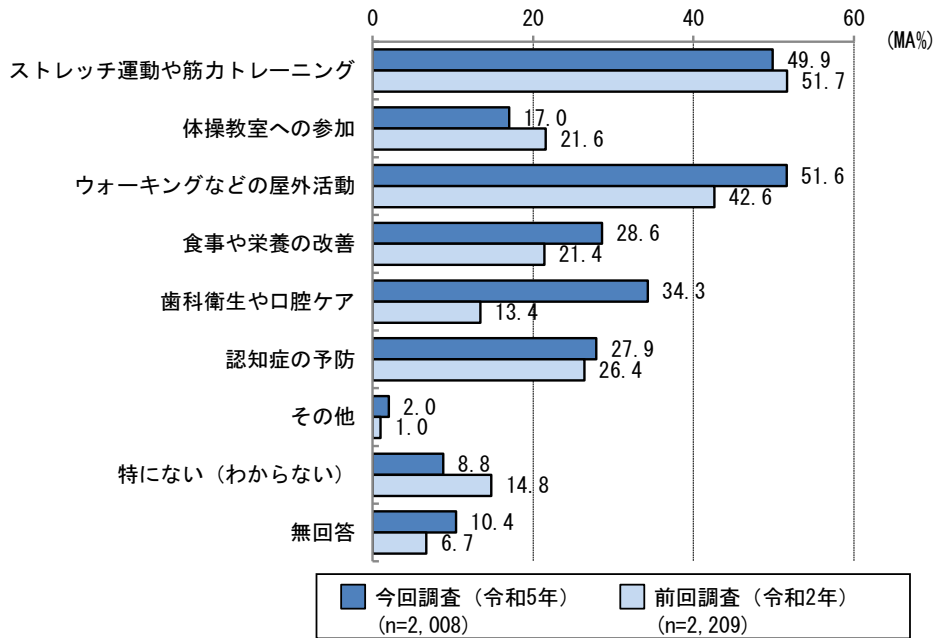


◆介護予防のための取組に対する希望

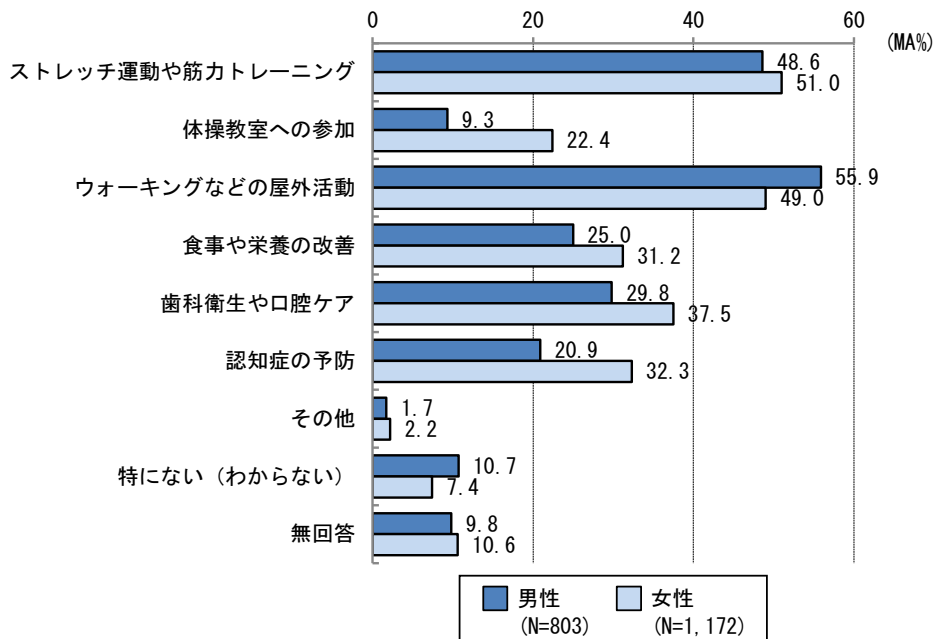
【問 8(9):介護予防のために取り組みたいこと】

「ウォーキングなどの屋外活動」が51.6%と最も多く、次いで、「ストレッチ運動や筋力トレーニング」が49.9%となっています。前回調査に比べて、「歯科衛生や口腔ケア」が20.9ポイント増加しています。

性別にみると、男性は「ウォーキングなどの屋外活動」、女性は「ストレッチ運動や筋力トレーニング」が最も多く、「ウォーキングなどの屋外活動」で男性が6.9ポイント多くになっているほかは、すべて女性のほうが多くなっています。



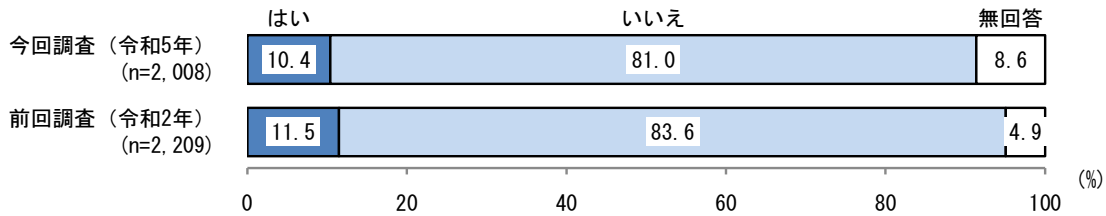
【介護予防のために取り組みたいこと 性別】



◆認知症について

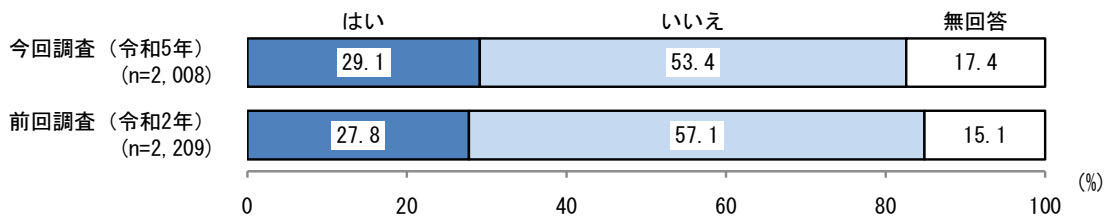
【問 9(1):認知症の有無】

自身や家族に認知症の症状がある（「はい」）は 10.4%で、前回調査と同様、1 割台となっています。

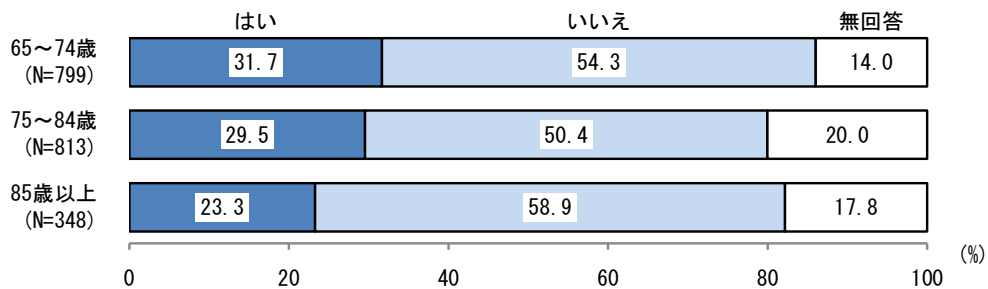


【問 9(2):将来、認知症になる(患う)可能性の認識の有無】

自身が認知症を患うと思う（「はい」）は 29.1%で、前回調査に比べて 1.3 ポイントとわずかに増加しています。
年齢別にみると、自身が認知症を患うと思う人は「前期高齢者」（65～74 歳）で 31.7%と最も多く、年齢が上がるにつれて減少していく傾向がみられます。

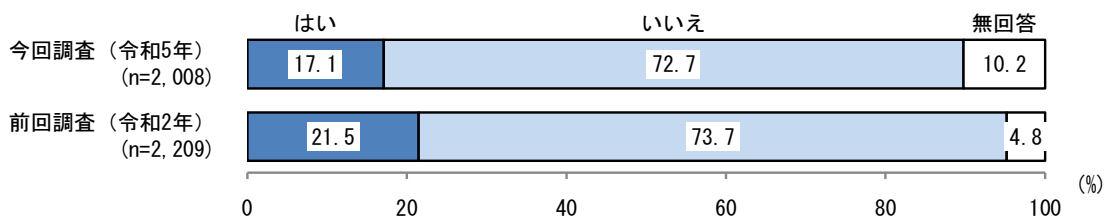


【将来、認知症になる(患う)可能性の認識の有無 年齢別】



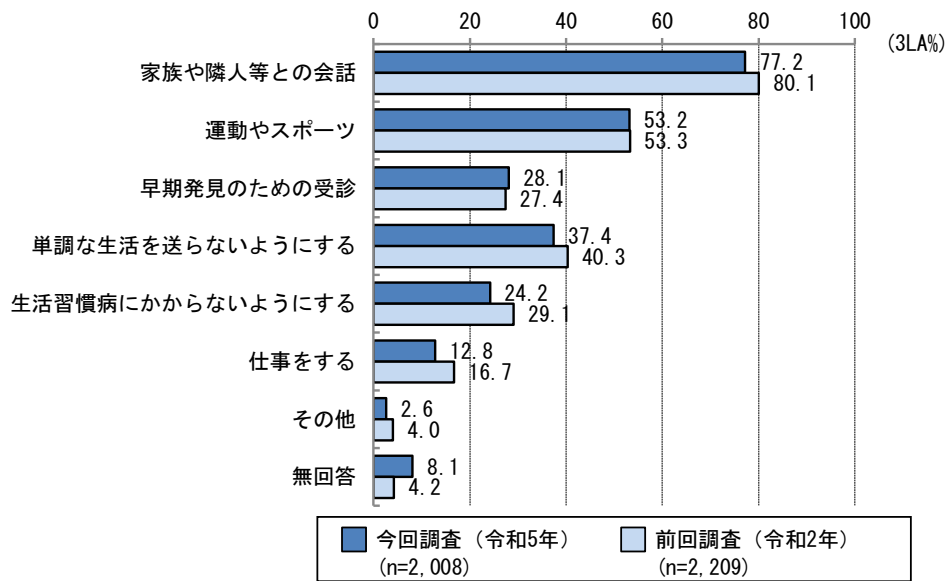
【問 9(3):認知症に関する相談窓口の認知度】

認知症に関する相談窓口を知っている（「はい」）は 17.1%で、前回調査に比べて 4.4 ポイント減少しています。



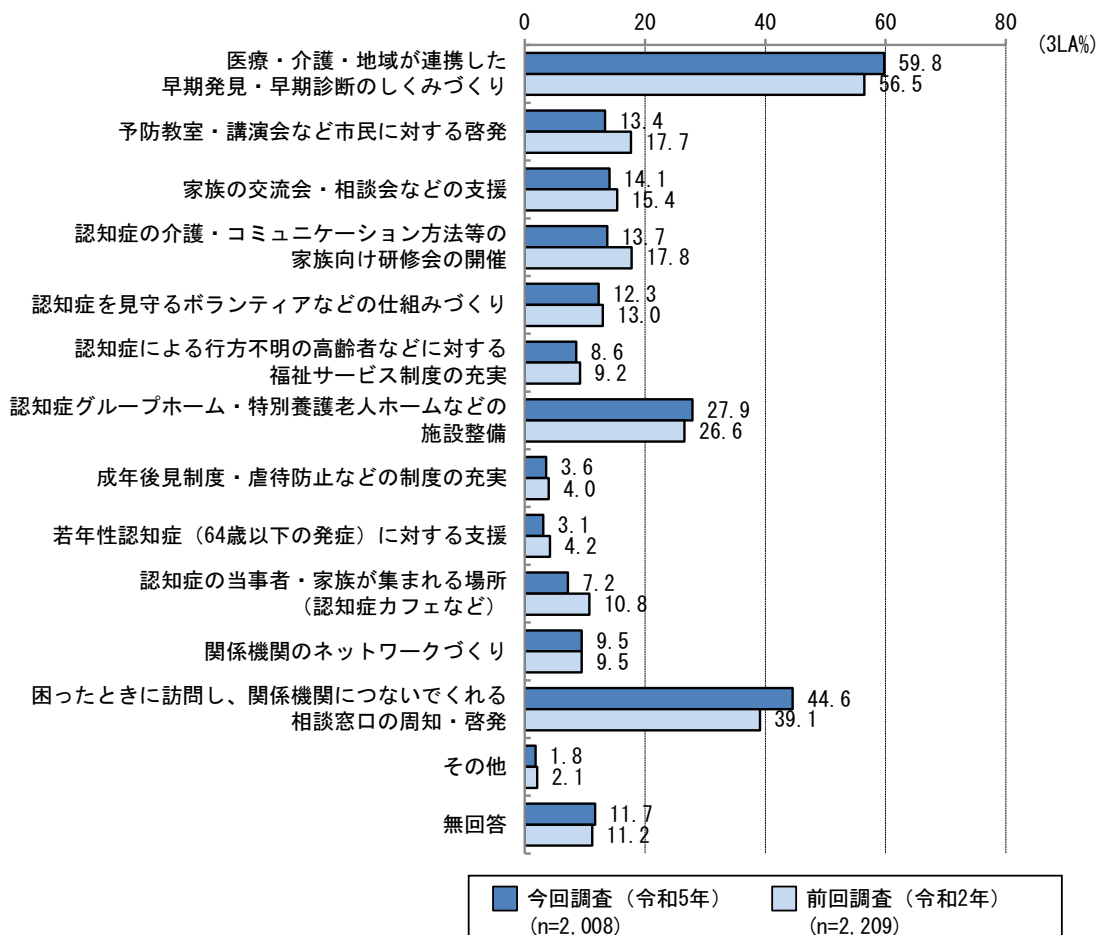
【問 9(4):認知症予防の方法として重要だと思うこと】

「家族や隣人等との会話」が 77.2%と最も多く、次いで、「運動やスポーツ」が 53.2%となっています。



【問 65:認知症の人への支援で必要と思うこと】

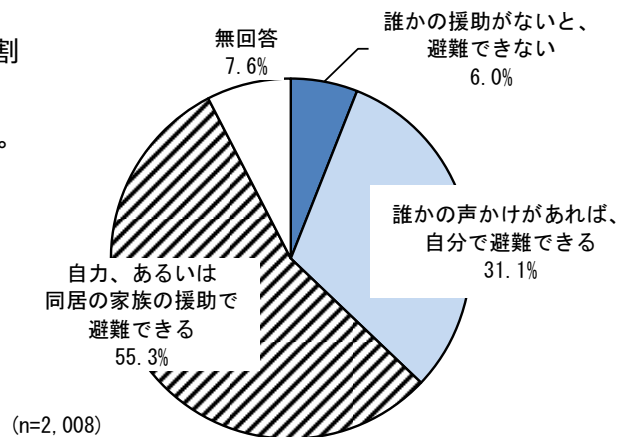
「医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診断のしくみづくり」が 59.8%と最も多く、次いで、「困ったときに訪問し、関係機関につないでくれる相談窓口の周知・啓発」が 44.6%、「認知症グループホーム・特別養護老人ホームなどの施設整備」が 27.9%となっています。前回調査に比べて、「困ったときに訪問し、関係機関につないでくれる相談窓口の周知・啓発」が 5.5 ポイント増加しています。



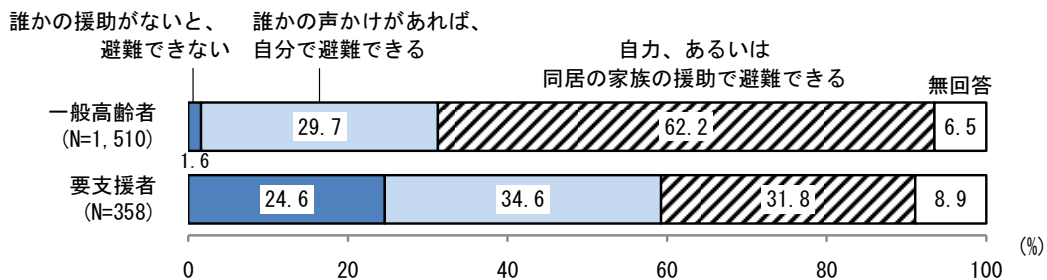
◆災害時の対応

【問 10(1):災害などの緊急時の避難の可否】

「自力、あるいは同居の家族の援助で避難できる」が 55.3%、「誰かの声かけがあれば、自分で避難できる」が 31.1%で、計 8 割以上の方が「避難できる」と回答していますが、要支援認定者の 24.6%は「誰かの援助がないと、避難できない」と回答しています。

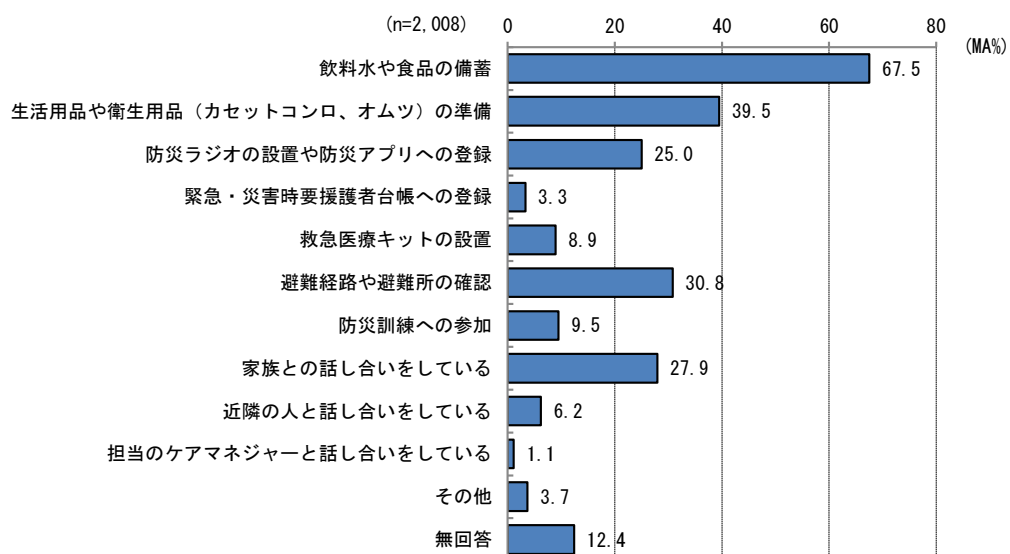


【災害などの緊急時の避難の可否 認定状況別】



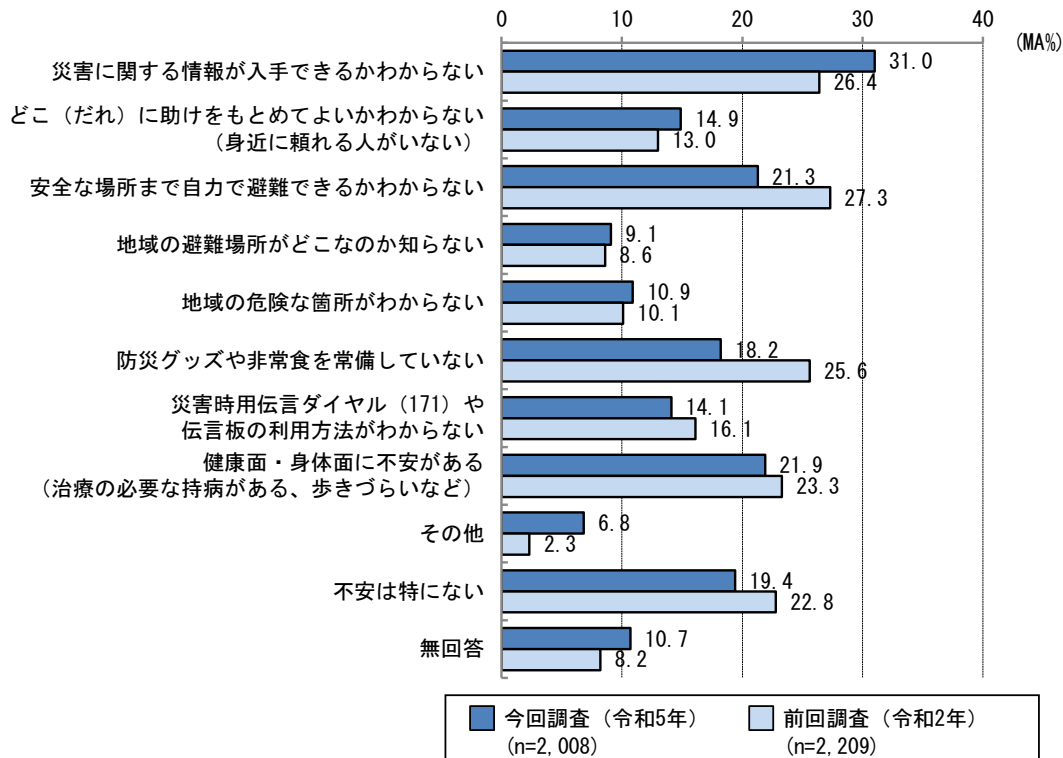
【問 10(2):緊急時・災害時に備えていること】

緊急時や災害時に備えていることについては、「飲料水や食品の備蓄」が 67.5%と最も多く、次いで、「生活用品や衛生用品（カセットコンロ、オムツ）の準備」が 39.5%、「避難経路や避難所の確認」が 30.8%となっています。



【問 10(3):災害時に不安に思うこと】

「災害に関する情報が入手できるかわからない」が 31.0%と最も多く、次いで、「健康面・身体面に不安がある（治療の必要な持病がある、歩きづらいなど）」が 21.9%、「安全な場所まで自力で避難できるかわからない」が 21.3% となっています。前回調査に比べて、「災害に関する情報が入手できるかわからない」が 4.6 ポイント増加し、「防災グッズや非常食を常備していない」が 7.4 ポイント、「安全な場所まで自力で避難できるかわからない」が 6.0 ポイント減少しています。

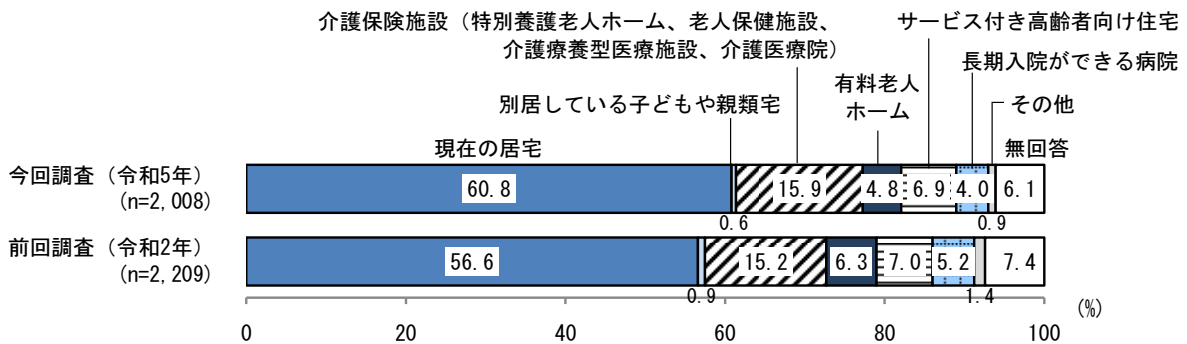


◆介護が必要になった場合に希望する住まい

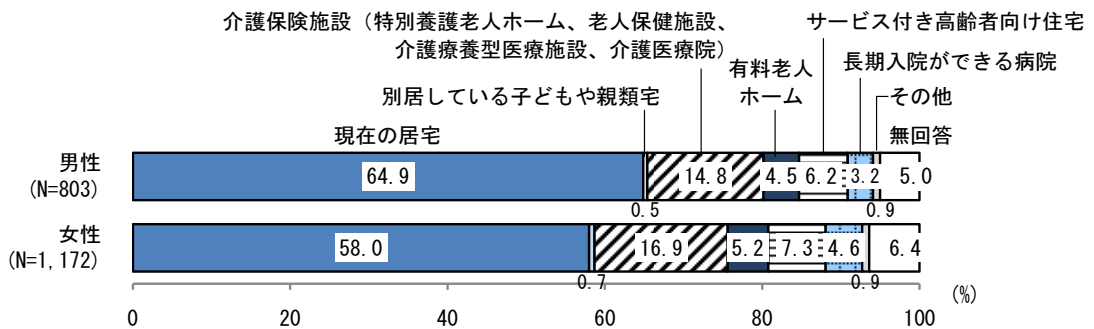
【問 11(2):介護が必要になった場合に希望する住まい】

「現在の居宅」が 60.8%と最も多く、次いで、「介護保険施設（特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院）」が 15.9%となっています。前回調査に比べて、「現在の居宅」が 4.2 ポイント増加しています。

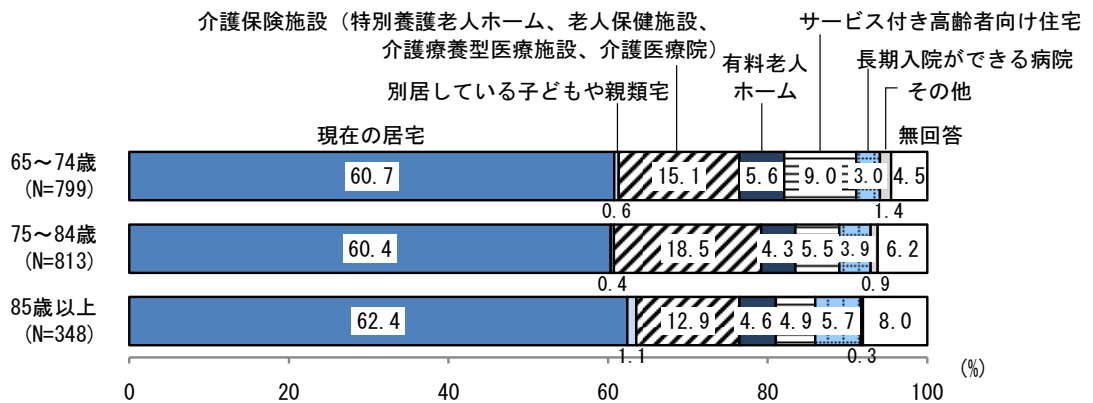
性別にみると、男性は「現在の居宅」が 64.9%と、女性に比べて 6.9 ポイント多くなっています。年齢別にみると、「前期高齢者」（65～74 歳）では「有料老人ホーム」や「サービス付き高齢者向け住宅」、75～84 歳では「介護保険施設（特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院）」、85 歳以上では「現在の居宅」の割合が、それぞれ他の年齢層に比べて多くなっています。



【介護が必要になった場合に希望する住まい 性別】



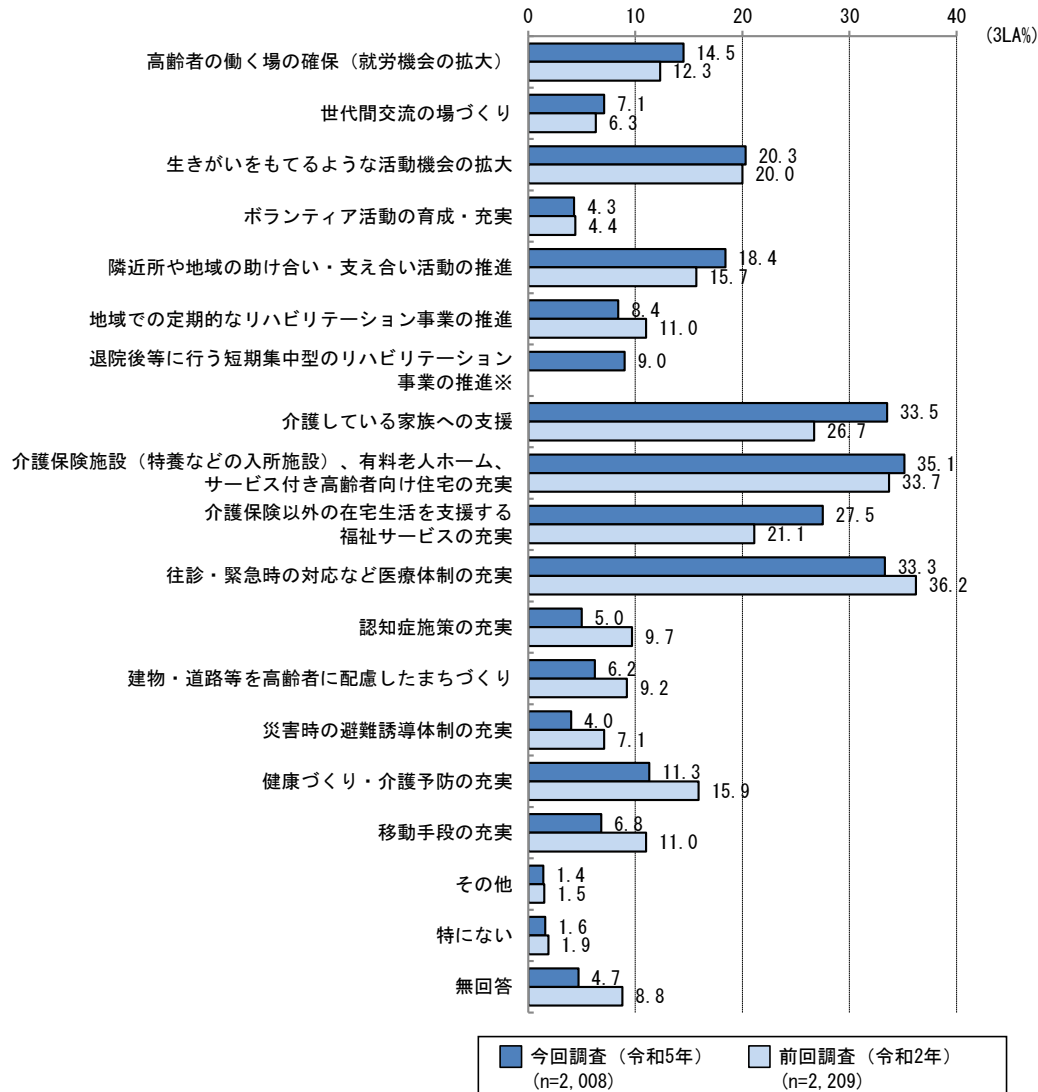
【介護が必要になった場合に希望する住まい 年齢別】



◆高齢者への支援として必要と思うこと

【問 11(3):高齢者への支援として必要と思うこと】

「介護保険施設（特養などの入所施設）、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅の充実」が 35.1%と最も多く、次いで、「介護している家族への支援」が 33.5%、「往診・緊急時の対応など医療体制の充実」が 33.3%となっています。前回調査に比べて、「介護している家族への支援」が 6.8 ポイント、「介護保険以外の在宅生活を支援する福祉サービスの充実」が 6.4 ポイント増加しています。



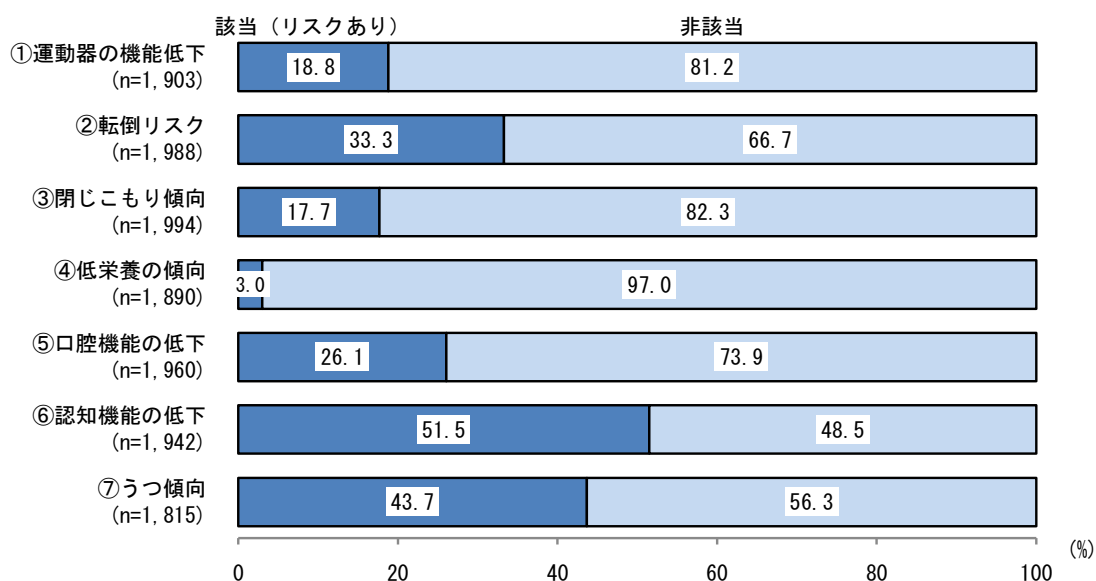
※前回調査では、選択肢なし

◆生活機能評価から／高齢者のリスクの状況

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を「リスクあり」と判定しています。

項目	設問	該当する選択肢
①運動器の機能低下 ※5項目中、3項目以上 該当でリスクあり	問 2 (1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇れるか	「3.できない」
	問 2 (2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上げられるか	「3.できない」
	問 2 (3) 15分位続けて歩いているか	「3.できない」
	問 2 (4) 過去1年間に転んだ経験があるか	「1.何度もある」「2.1度ある」
	問 2 (5) 転倒に対する不安は大いか	「1.とても不安である」「2.やや不安である」
②転倒リスク ※該当でリスクあり	問 2 (4) 過去1年間に転んだ経験があるか	「1.何度もある」「2.1度ある」
③閉じこもり傾向 ※該当でリスクあり	問 2 (6) 週に何回外出しているか	「1.ほとんど外出しない」「2.週1回」
④低栄養の傾向 ※2項目とも該当でリスクあり	問 4 (1) BMI (身長・体重より算出)	18.5未満
	問 4 (2) 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか	「1.はい」
⑤口腔機能の低下 ※3項目中、2項目以上 該当でリスクあり	問 4 (3) 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか	「1.はい」
	問 4 (4) お茶や汁物等でむせることがあるか	「1.はい」
	問 4 (5) 口の渇きが気になるか	「1.はい」
⑥認知機能の低下 ※該当でリスクあり	問 5 (1) 物忘れが多いと感じるか	「1.はい」
⑦うつ傾向 ※2項目中、いずれかに 該当でリスクあり	問 8 (3) 気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったか	「1.はい」
	問 8 (4) どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあったか	「1.はい」

リスク該当者は、「⑥認知機能の低下」で 51.5%と最も多く、次いで、「⑦うつ傾向」で 43.7%、「②転倒リスク」で 33.3%となっています。一方、「④低栄養の傾向」ではリスク該当者は 3.0%と少なくなっています。



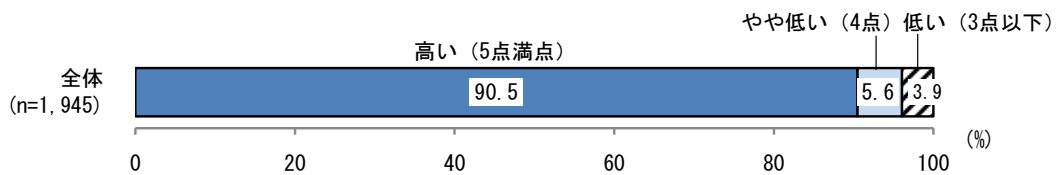
◆生活機能評価から／ 老研式活動能力指標

高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標に準じた設問に基づき、活動的な日常生活をおくるための能力（手段的自立度：IADL）、余暇や創作など生活を楽しむ能力（知的能動性）、地域で社会的な役割を果たす能力（社会的役割）が低下している人の状況を把握します。

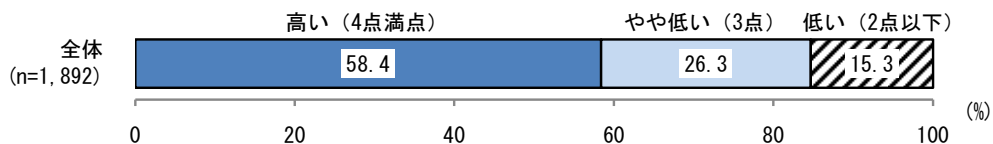
項目	設問	評価の方法
①手段的自立度（IADL）	問 5（4）バスや電車を使って1人で外出しているか	5項目について、それぞれ「1.できるし、している」または「2.できるだけしていない」と回答した場合を1点として5問の合計点を算出し、5点満点中5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」として4点以下は能力が低下していると評価。
	問 5（5）自分で食品・日用品の買物をしているか	
	問 5（6）自分で食事の用意をしているか	
	問 5（7）自分で請求書の支払いをしているか	
	問 5（8）自分で預貯金の出し入れをしているか	
②知的能動性	問 5（9）年金などの書類が書けるか	4項目について、それぞれ「1.はい」と回答した場合を1点として4問の合計点を算出し、4点満点中4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」として3点以下は能力が低下していると評価。
	問 5（10）新聞を読んでいるか	
	問 5（11）本や雑誌を読んでいるか	
	問 5（13）健康についての記事や番組に関心があるか	
③社会的役割	問 5（14）友人の家を訪ねているか	2点以下を「低い」として3点以下は能力が低下していると評価。
	問 5（15）家族や友人の相談にのっているか	
	問 5（16）病人を見舞うことができるか	
	問 5（17）若い人に自分から話しかけることがあるか	

能力が「高い」となっている人の割合は、手段的自立度（IADL）で90.5%、知的能動性で58.4%、社会的役割で20.8%となっています。

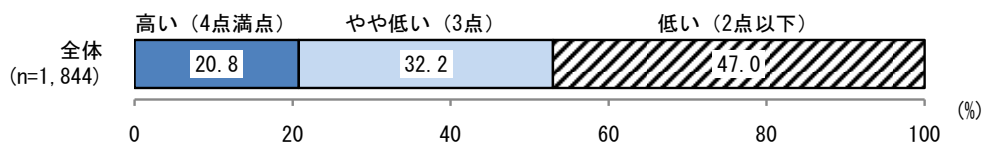
①手段的自立度（IADL）



②知的能動性



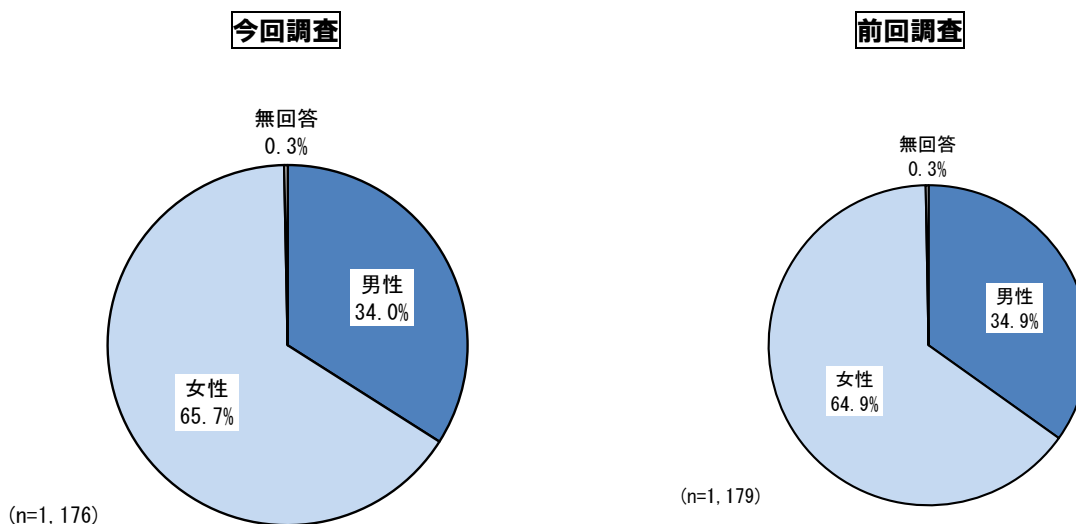
③社会的役割



2. 在宅介護実態調査

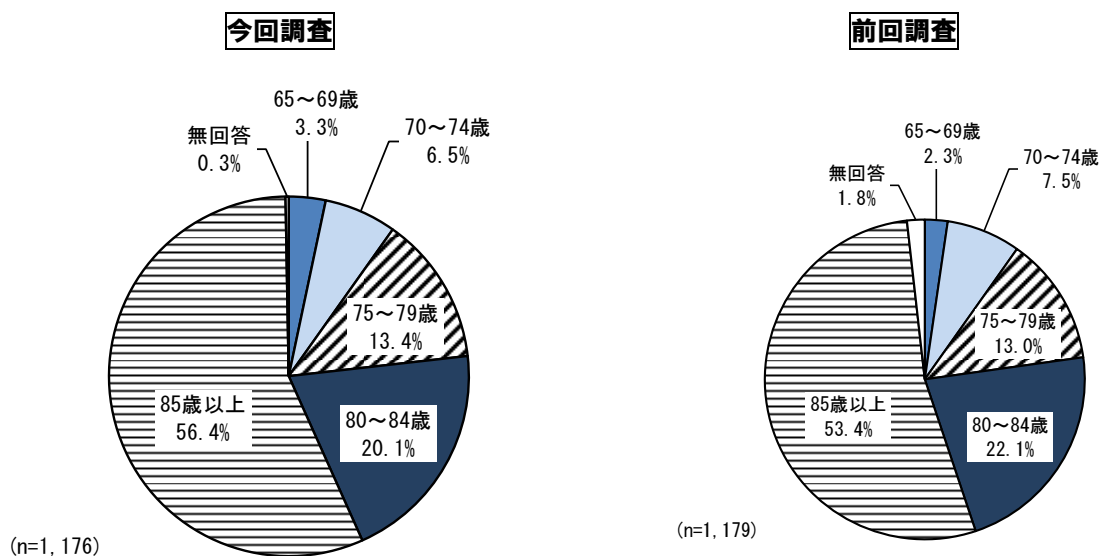
◆調査対象者の基本属性

【性別】

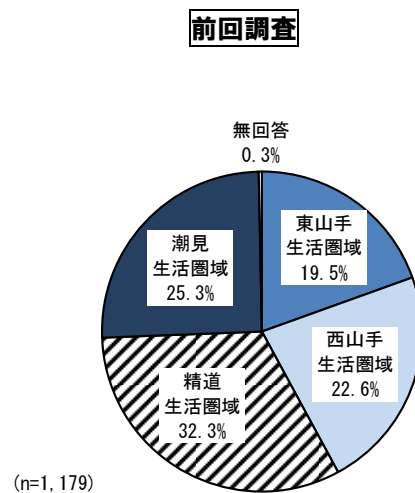
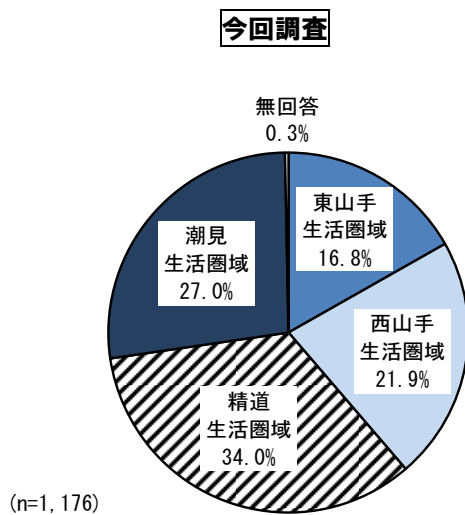


【年齢】

「前期高齢者」(65~74歳)が9.8%、「後期高齢者」(75歳以上)が89.9%で、前回調査に比べて「後期高齢者」が1.4ポイントと微増、とくに、「85歳以上」が3.0ポイント増加しています。

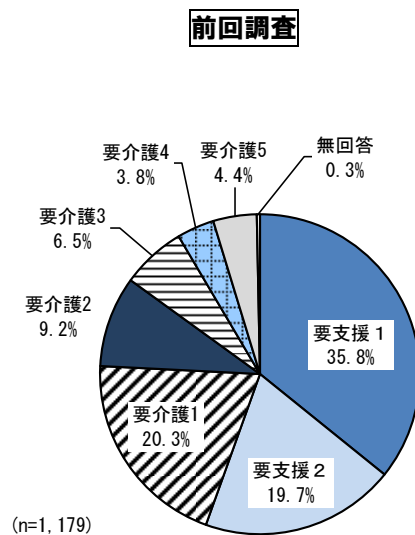
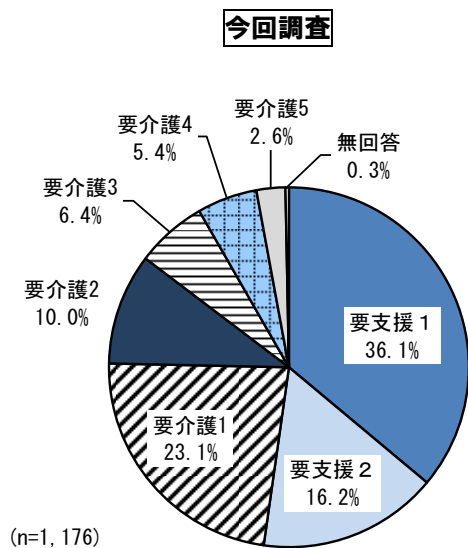


【居住地域】



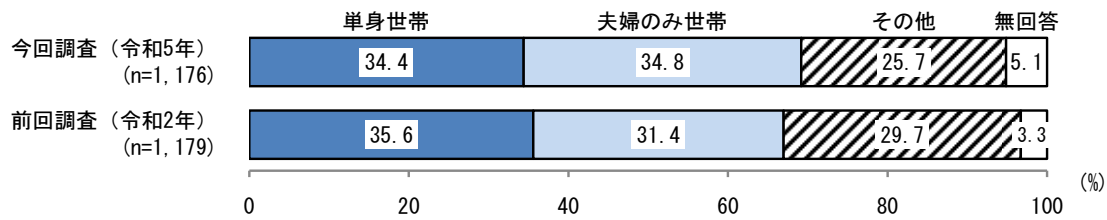
【要介護度】

「要支援 1」が 36.1%と最も多く、次いで、「要介護 1」が 23.1%、「要支援 2」が 16.2%となっています。要介護者は 47.5%で前回調査に比べ、3.3 ポイント増加しています。



【A 票 問 1:世帯類型】

「単身世帯」が 34.4%、「夫婦のみ世帯」が 34.8%で、前回調査に比べて「夫婦のみ世帯」が 3.4 ポイント増加しています。

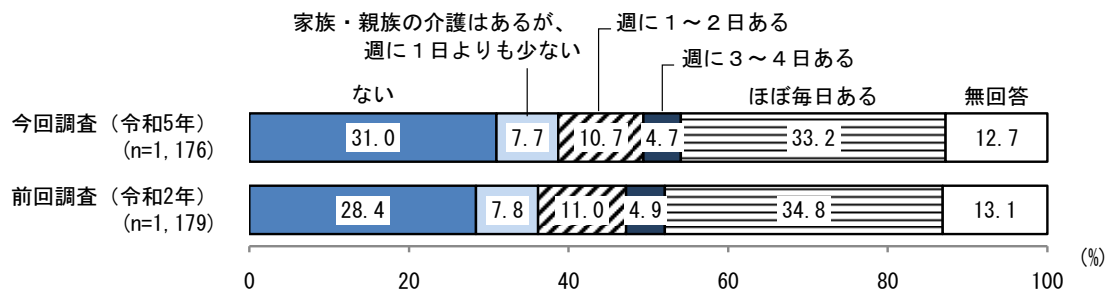


◆介護を受ける頻度

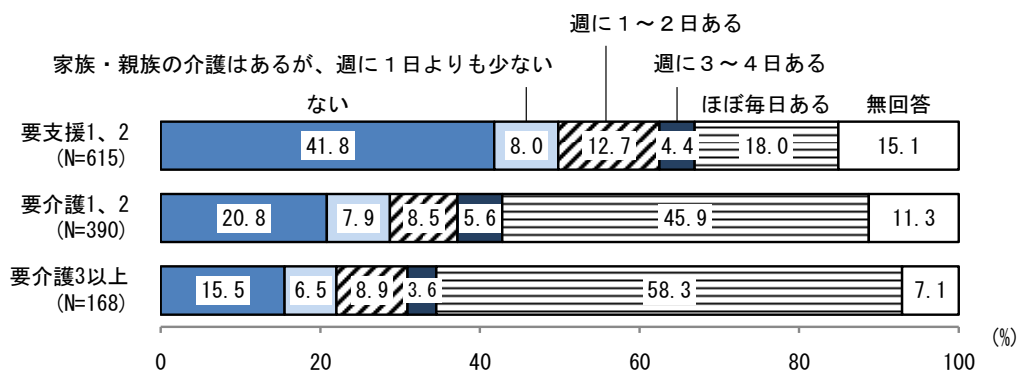
【A 票 問 25:家族や親族から介護を受ける頻度】

家族から介護を『受けている』（「ない」以外の合計）は 56.3%となっており、前回調査に比べて 2.2 ポイント減少しています。

要介護度別にみると、要支援 1、2 では「ない」が 41.8%で最も多く、要介護 1、2 では『受けている』が 67.9%、要介護 3 以上では 77.3%となっています。



【家族や親族から介護を受ける頻度 要介護度別】

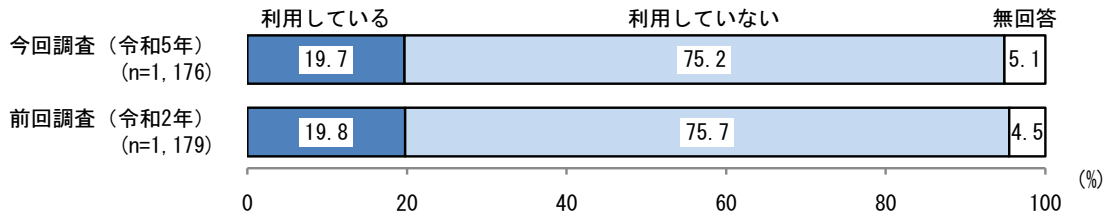


◆訪問診療の利用状況

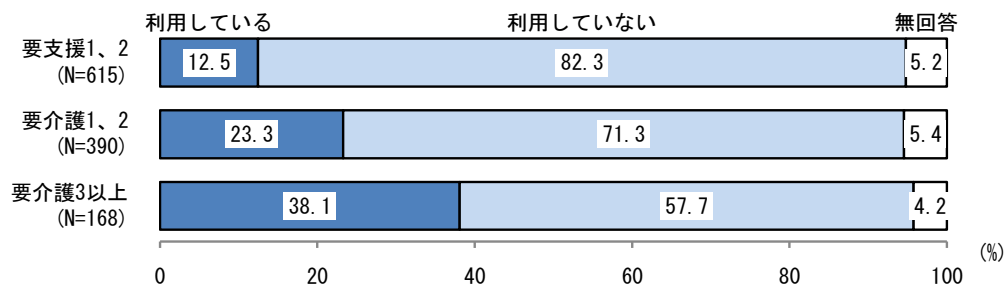
【A 票 問 4:訪問診療の利用状況】

訪問診療を「利用している」は 19.7%で、前回同様の結果となっています。

要介護度別にみると、訪問診療を「利用している」は要介護 3 以上で 38.1%と多くなっています。



【訪問診療の利用状況 要介護度別】

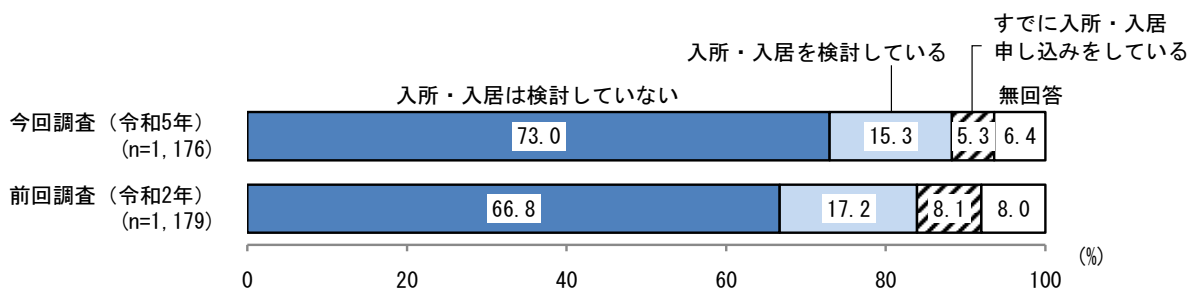


◆施設等への入所・入居の検討状況

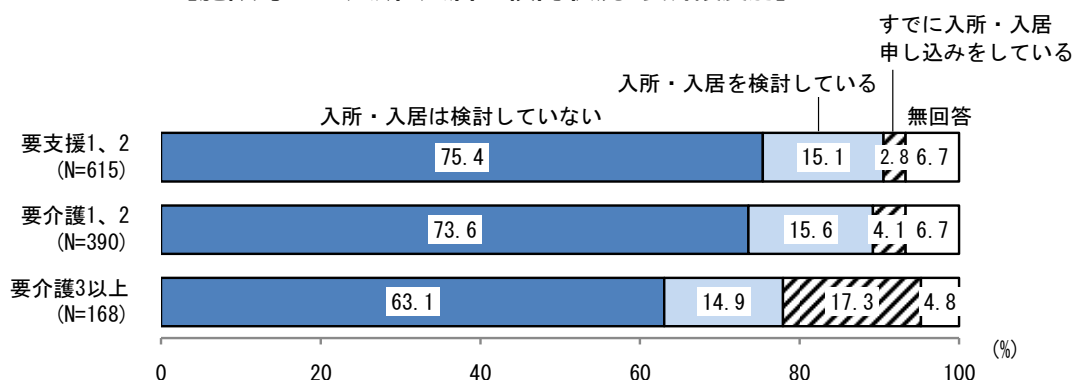
【A 票 問 5:施設等への入所・入居の検討状況】

施設等への「入所・入居を検討している」は 15.3%、「すでに入所・入居申し込みをしている」は 5.3%で、入所・入居の意向がある人は合計 20.6%で、前回調査に比べて 4.7 ポイント減少しています。

要介護度別にみると、入所・入居の意向がある人は要支援 1、2、要介護 1、2 で 2 割弱、要介護 3 以上では 3 割強となっています。



【施設等への入所・入居の検討状況 要介護度別】

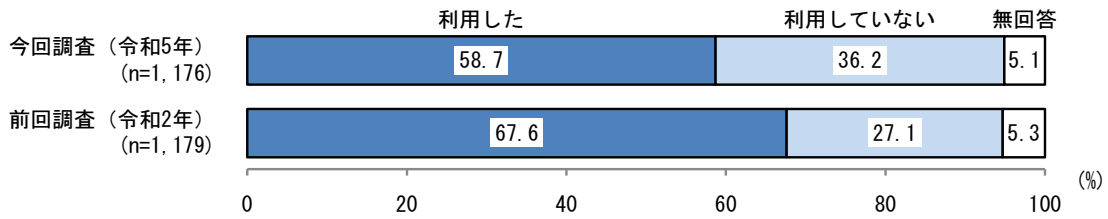


◆介護保険サービスの利用状況

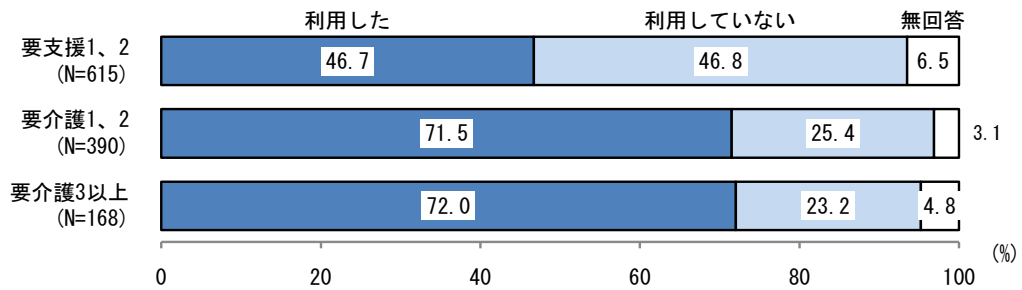
【A 票 問 6:介護保険サービスの利用状況】 ※住宅改修、福祉用具貸与・購入以外

令和5年1月1か月間の、介護保険サービスの利用状況については、「利用した」が58.7%、「利用していない」が36.2%で、前回調査に比べて「利用した」は8.9ポイント減少しています。

要介護度別にみると、「利用した」は要支援1、2で5割弱、要介護認定者で7割強となっています。



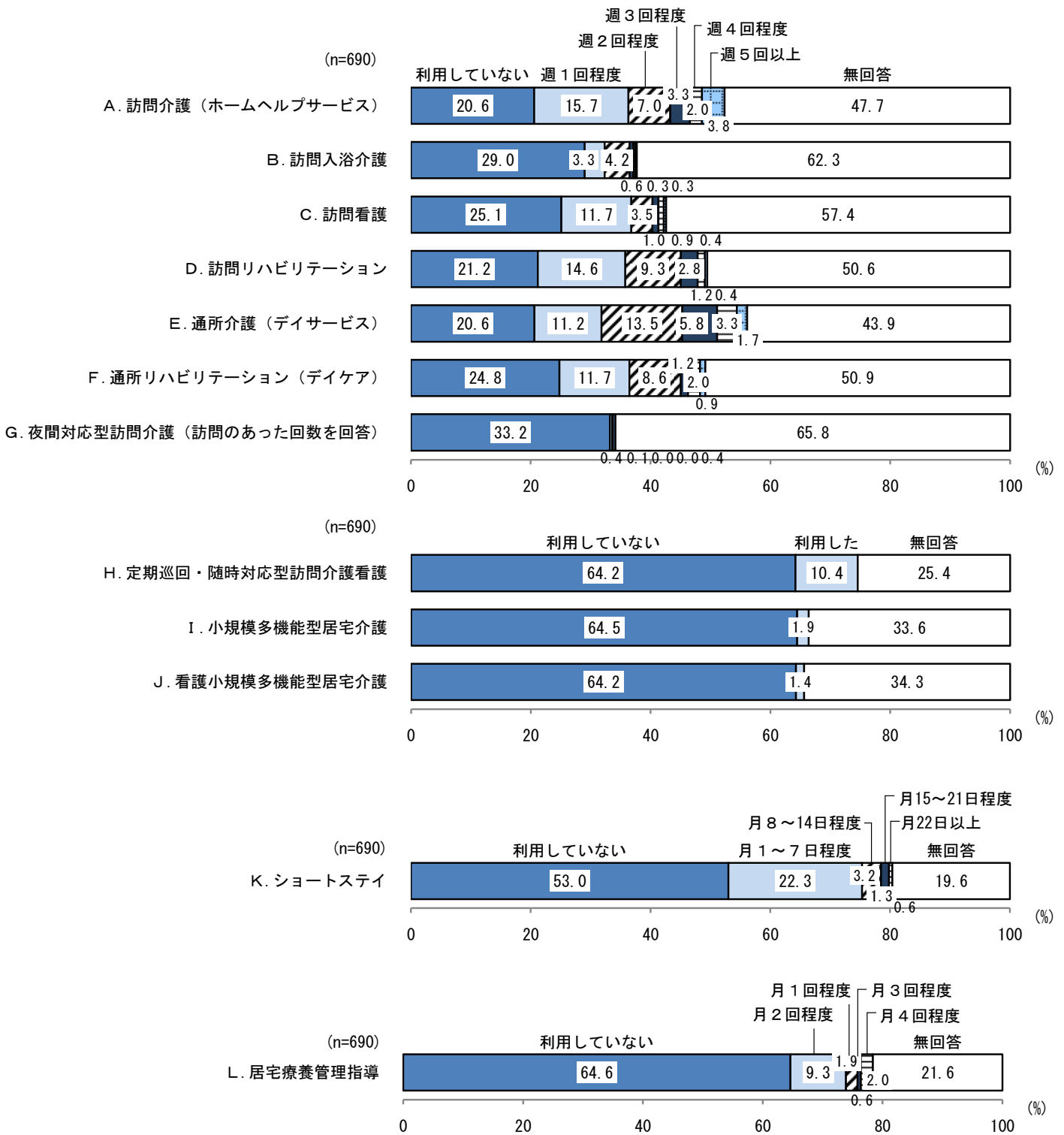
【介護保険サービスの利用状況 要介護度別】



【A 票 問 11:利用したサービスと利用回数】

最も利用が多いのは「E.通所介護（デイサービス）」で、「週1回程度」から「週5回以上」までを合わせた『利用した』は35.5%、「週2回程度」の利用が最も多くなっています。次いで、「A.訪問介護（ホームヘルプサービス）」では、『利用した』は31.8%、「週1回程度」の利用が最も多くなっています。

『利用した』は「H.定期巡回・随時対応型訪問介護看護」で10.4%、「K.ショートステイ」で27.4%、「L.居宅療養管理指導」で13.8%となっており、「I.小規模多機能型居宅介護」や「J.看護小規模多機能型居宅介護」では少なくなっています。

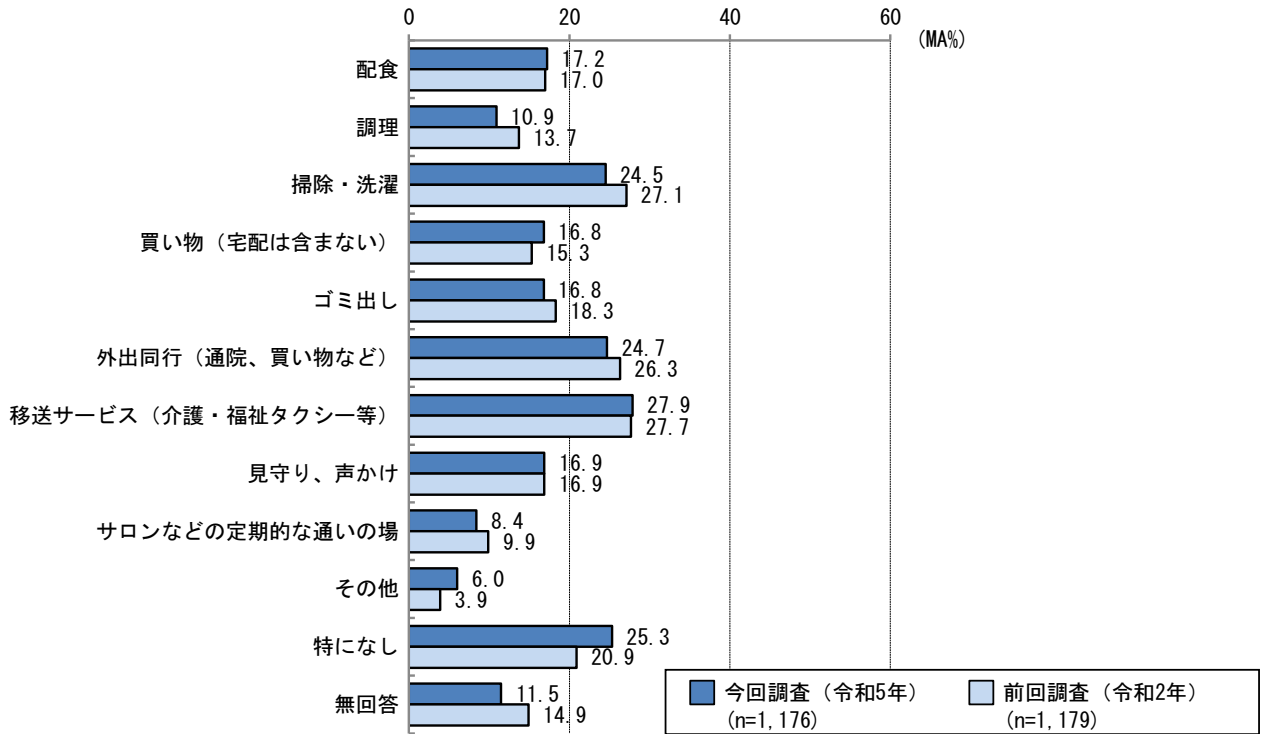


◆在宅生活の継続に必要な支援・サービス

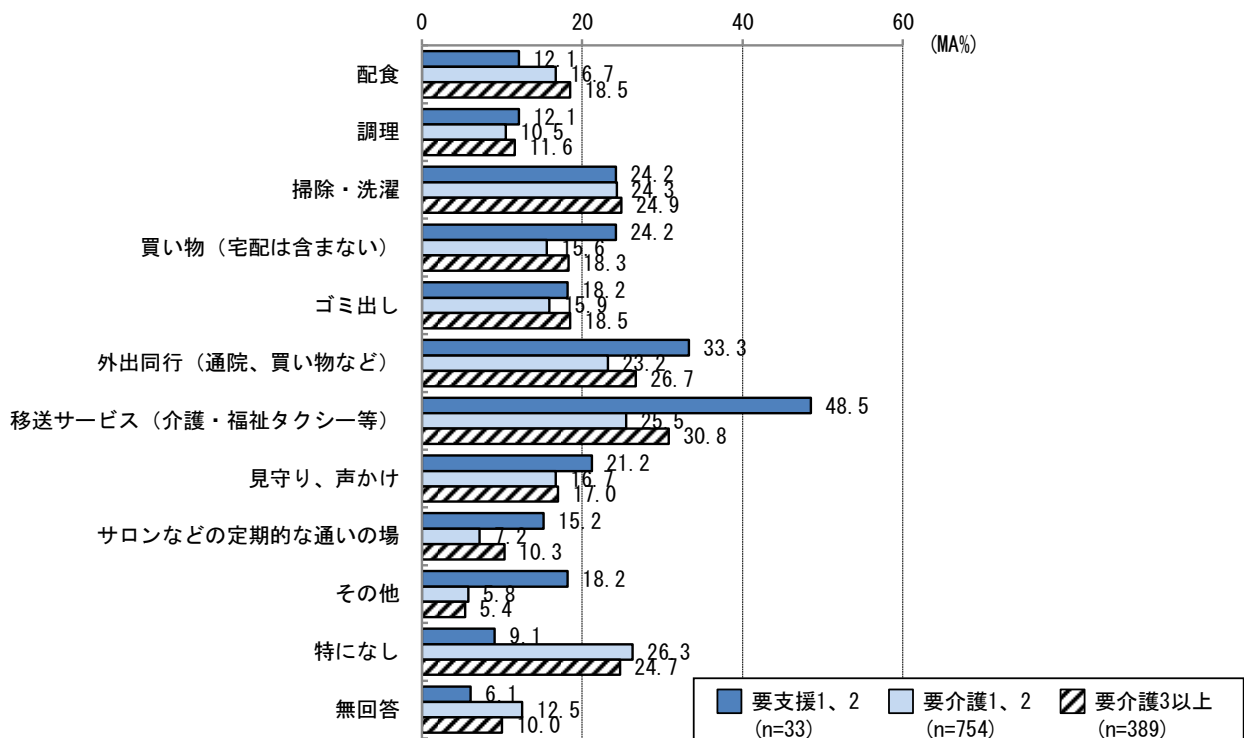
【A 票 問 8:在宅生活の継続に必要な支援・サービス】

在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスは、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が27.9%と最も多く、次いで、「外出同行（通院、買い物など）」が24.7%、「掃除・洗濯」が24.5%となっています。

要介護度別にみると、要支援認定者で「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「外出同行（通院、買い物など）」がとくに多くなっています。



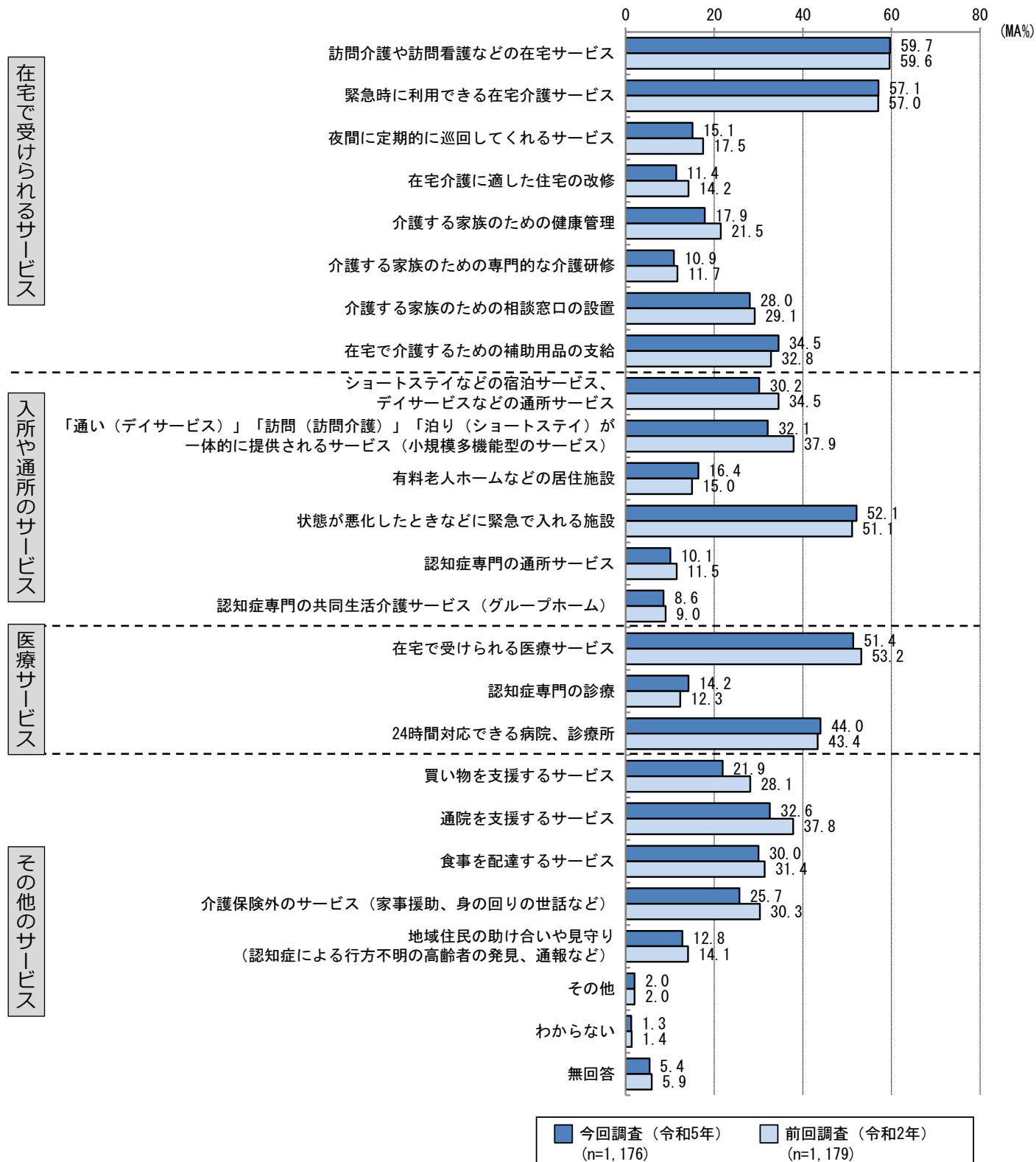
【在宅生活の継続に必要な支援・サービス 要介護度別】



◆身の回りのことができなくなったときに必要なサービス

【A票 問9:身の回りのことができなくなったときに必要なサービス】

「訪問介護や訪問看護などの在宅サービス」が59.7%と最も多く、次いで、「緊急時に利用できる在宅介護サービス」が57.1%、「状態が悪化したときなどに緊急で入れる施設」が52.1%、「在宅で受けられる医療サービス」が51.4%となっています。

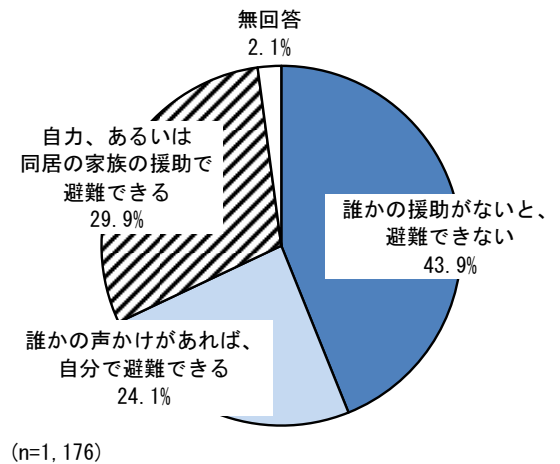


◆災害時の対応

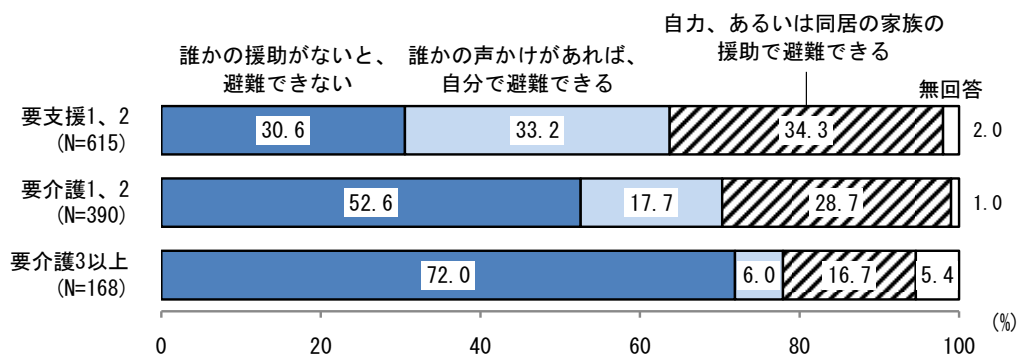
【A票 問10:災害などの緊急時の避難の可否】

「誰かの援助がないと、避難できない」が43.9%と最も多く、「自力、あるいは同居の家族の援助で避難できる」が29.9%、「誰かの声かけがあれば、自分で避難できる」が24.1%で、『避難できる』と回答している人は合計54.0%となっています。

要介護度別にみると、要介護3以上では、「誰かの援助がないと、避難できない」が72.0%と、他の区分に比べて多くなっています。

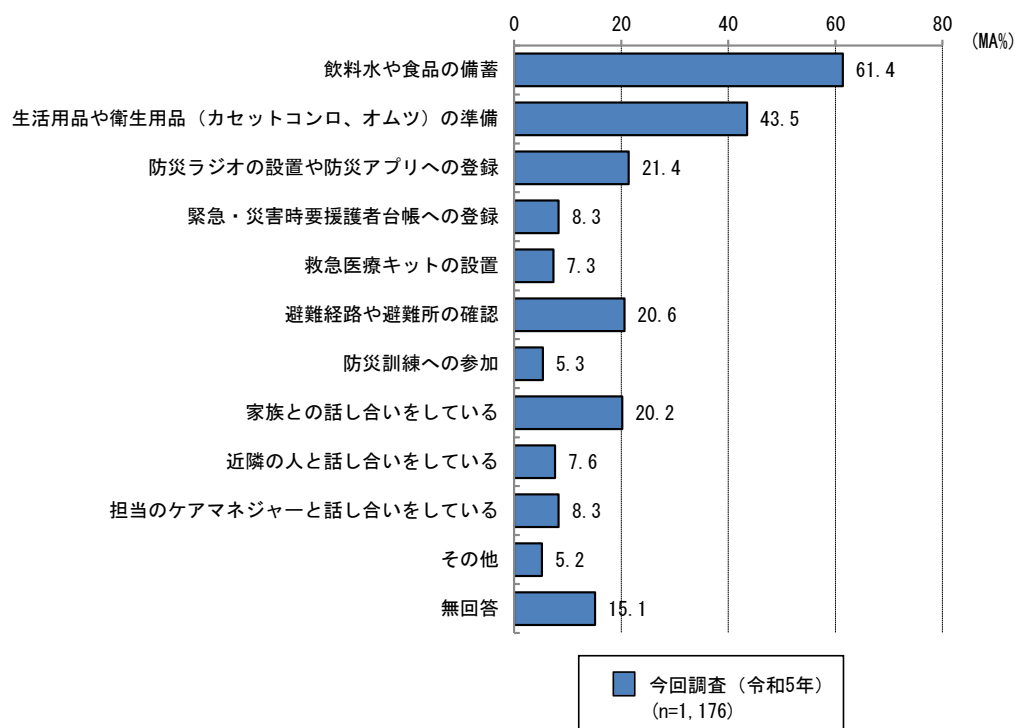


【災害などの緊急時の避難の可否 要介護度別】



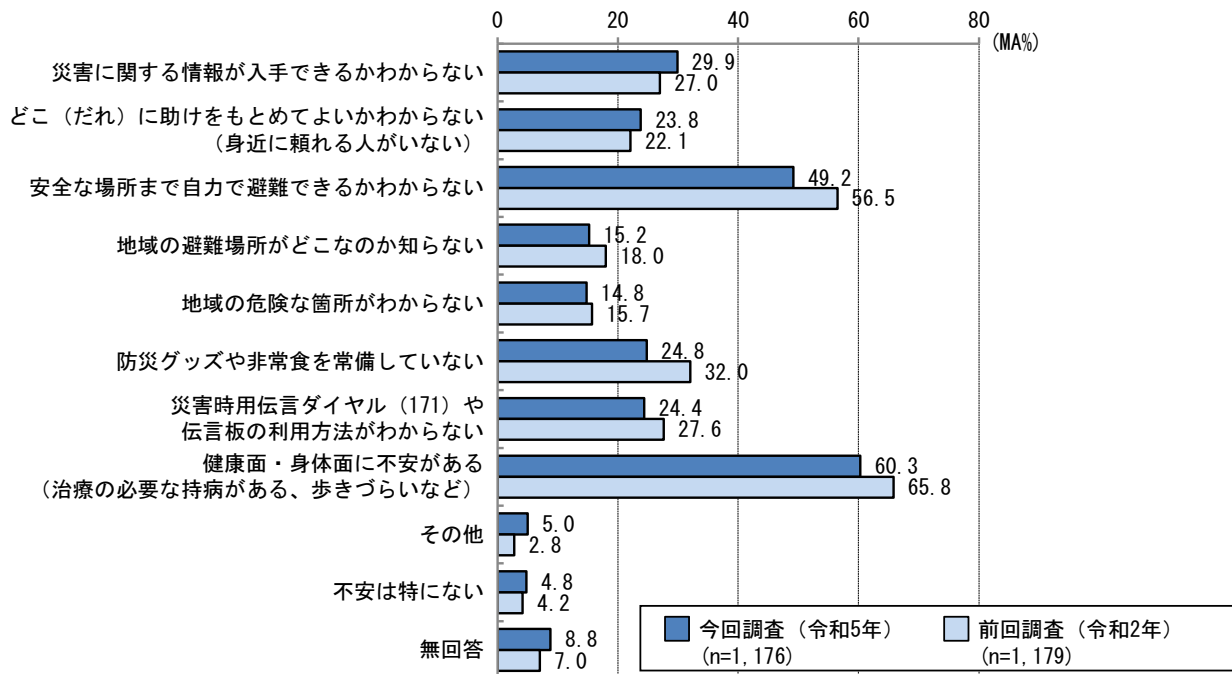
【A票 問11:緊急時・災害時への備え】

緊急時・災害時への備えについては、「飲料水や食品の備蓄」が61.4%と最も多く、次いで、「生活用品や衛生用品（カセットコンロ、オムツ）の準備」が43.5%となっています。



【A 票 問 12:災害時に不安に思うこと】

「健康面・身体面に不安がある（治療の必要な持病がある、歩きづらいなど）」が60.3%と最も多く、次いで、「安全な場所まで自力で避難できるかわからない」が49.2%となっています。前回調査に比べて、「安全な場所まで自力で避難できるかわからない」が7.3ポイント、「防災グッズや非常食を常備していない」が7.2ポイント減少しています。

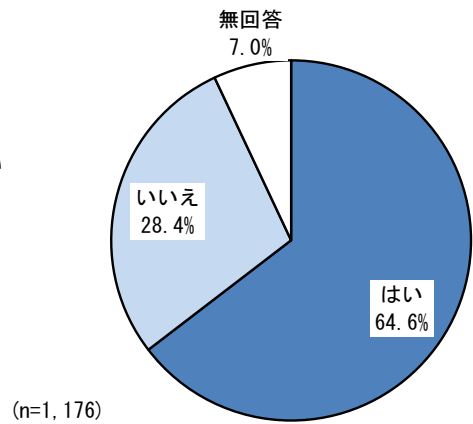


◆高齢者生活支援センターの認知と利用

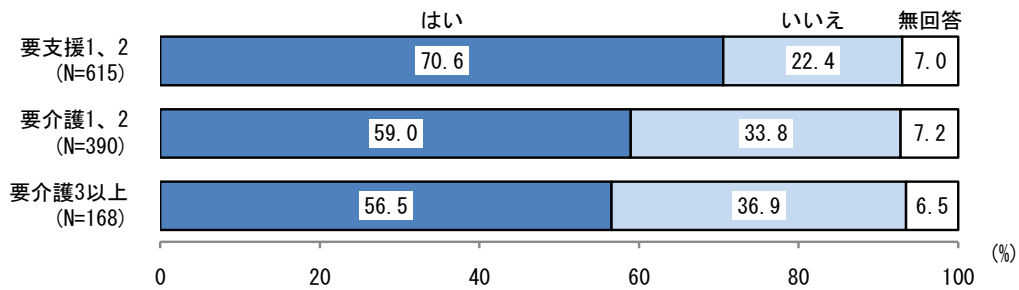
【A 票 問 13:高齢者生活支援センターの認知】

高齢者生活支援センターを「知っている」（「はい」）は64.6%、「知らない」（「いいえ」）は28.4%となっています。

要介護度別にみると、「はい」（知っている）は要支援1、2で70.6%と多く、要介護1、2、要介護3以上でも6割弱となっています。



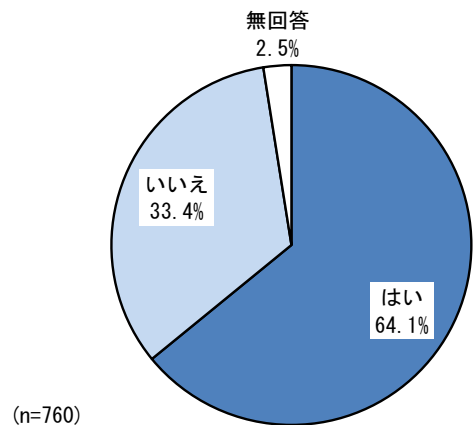
【高齢者生活支援センターの認知 要介護度別】



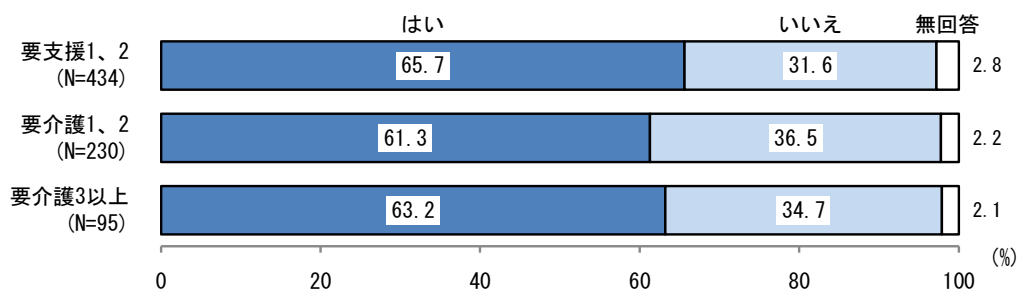
【A 票 問 13-1:高齢者生活支援センターの利用】 ※問13で「はい（知っている）」と回答した人のみ

高齢者生活支援センターを「知っている」人のうち、「利用したことがある」（「はい」）は64.1%となっています。

要介護度別にみると、「はい」（利用したことがある）はすべての区分で6割台となっています。



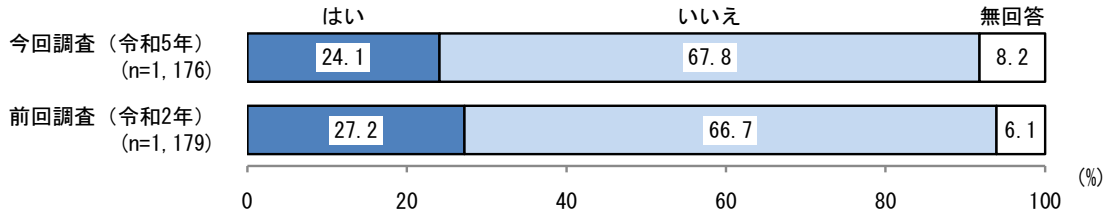
【高齢者生活支援センターの利用 要介護度別】



◆認知症について

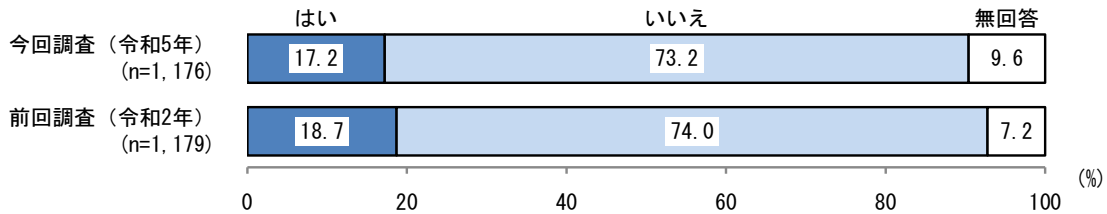
【A票 問15:認知症の有無】

自身や家族に認知症の症状がある（「はい」）は24.1%で、前回調査に比べて3.1ポイント減少しています。



【A票 問16:認知症に関する相談窓口の認知度】

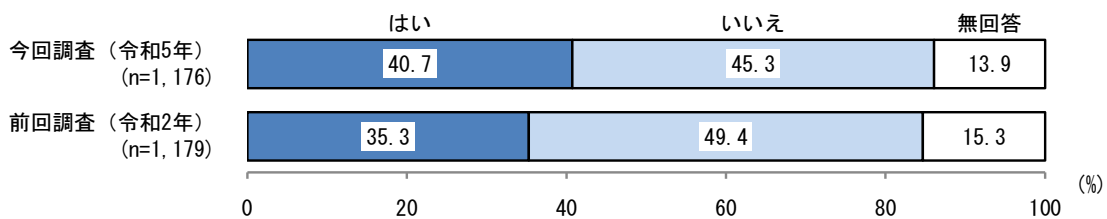
認知症に関する相談窓口を知っている（「はい」）は17.2%で、前回調査に比べて1.5ポイント減少しています。



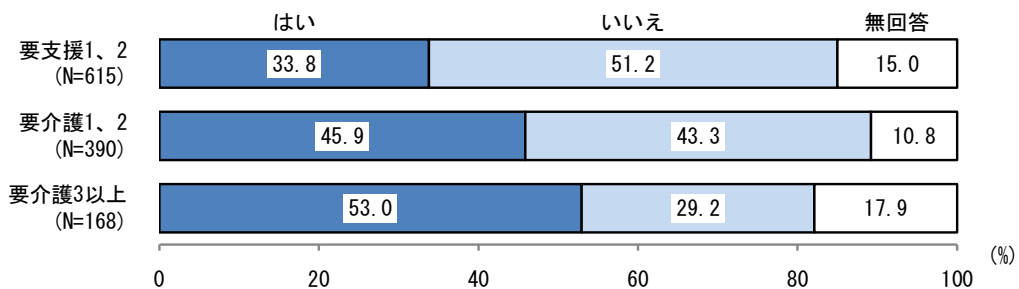
【A票 問17:将来、認知症になる(患う)可能性の認識の有無】

自身が認知症を患うと思う（「はい」）は40.7%で、前回調査に比べて5.4ポイント増加しています。

要介護度別にみると、「はい」（認知症になると思う）は要介護3以上で53.0%と約半数を占めています。

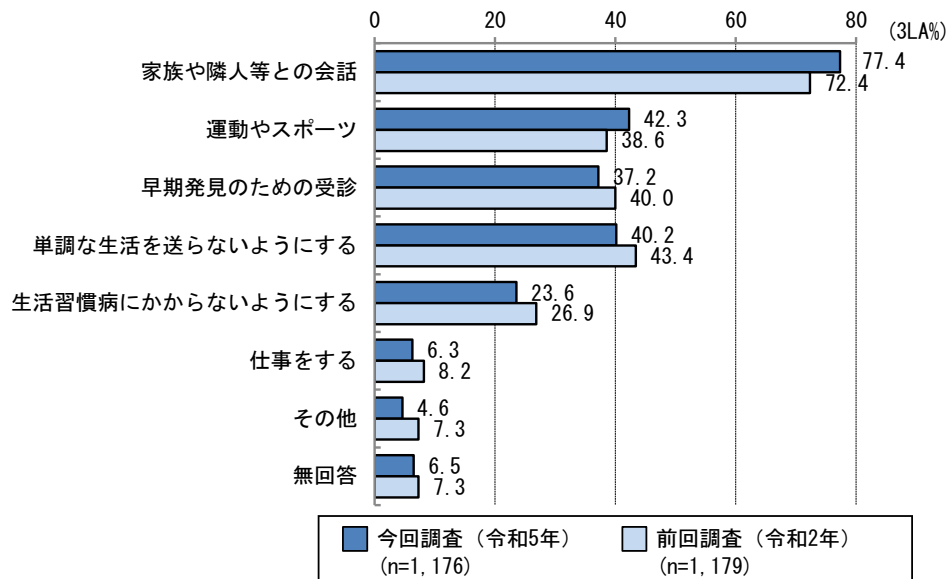


【将来、認知症になる(患う)可能性の認識の有無 要介護度別】



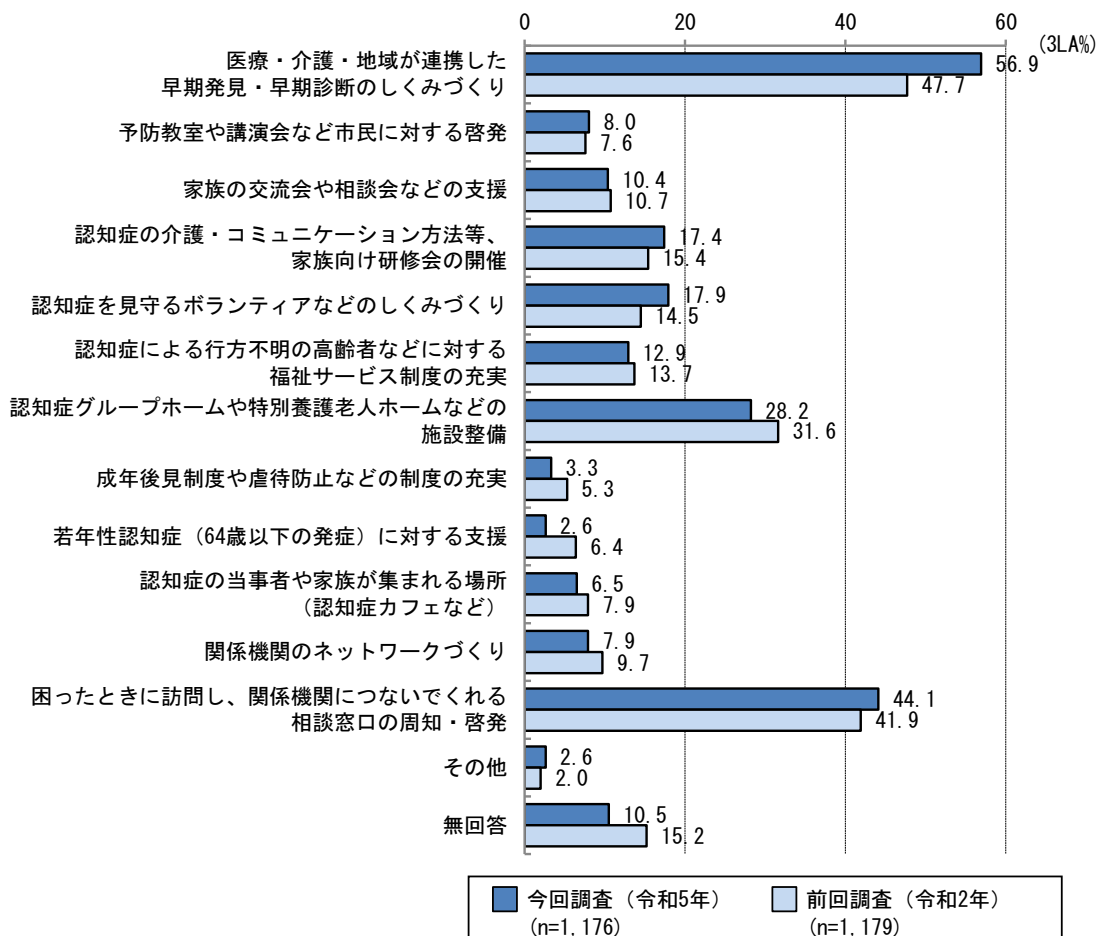
【A票 問18:認知症予防の方法として重要だと思うこと】

「家族や隣人等との会話」が77.4%と最も多く、次いで、「運動やスポーツ」が42.3%となっています。



【A票 問19:認知症の人への支援で必要と思うこと】

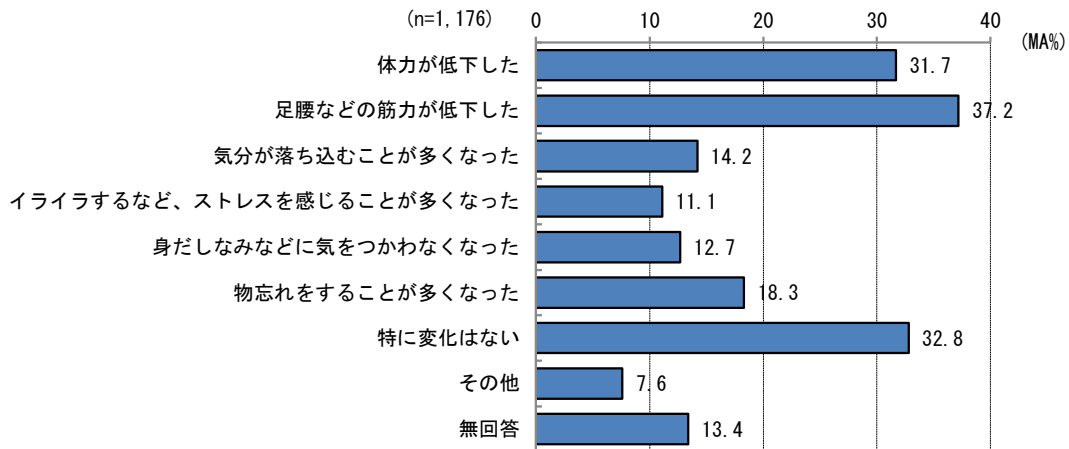
「医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診断のしくみづくり」が56.9%と最も多く、次いで、「困ったときに訪問し、関係機関につないでくれる相談窓口の周知・啓発」が44.1%、「認知症グループホーム・特別養護老人ホームなどの施設整備」が28.2%となっています。前回調査に比べて、「医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診断のしくみづくり」が9.2ポイント増加しています。



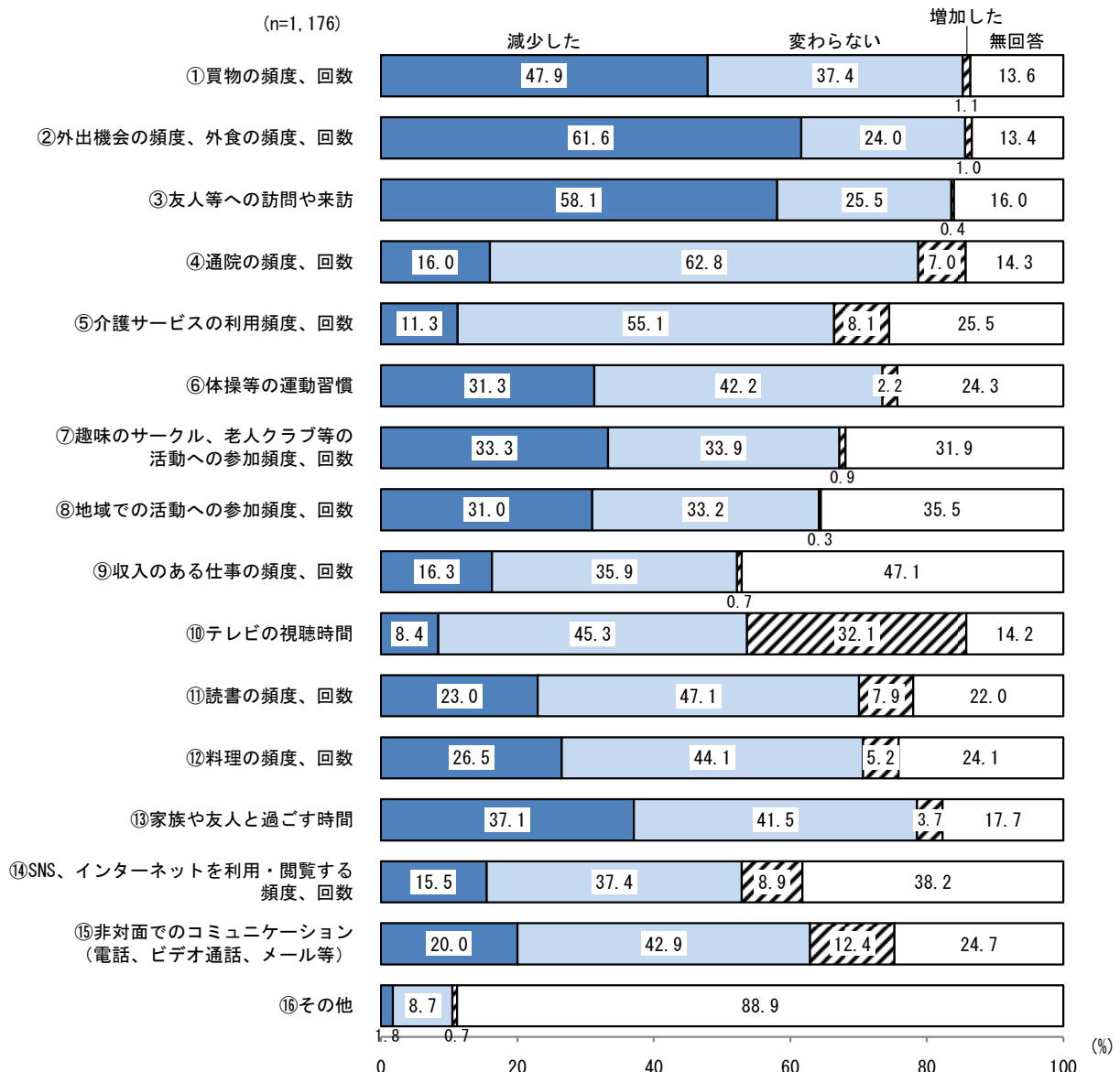
◆新型コロナウイルス感染症が与えた影響

【A票 問 21、22:新型コロナウイルス感染症が心身や日常生活に与えた影響】

心身に与えた影響では、「足腰などの筋力が低下した」が37.2%と最も多く、次いで、「体力が低下した」が31.7%となっています。一方、「特に変化はない」も32.8%みられます。



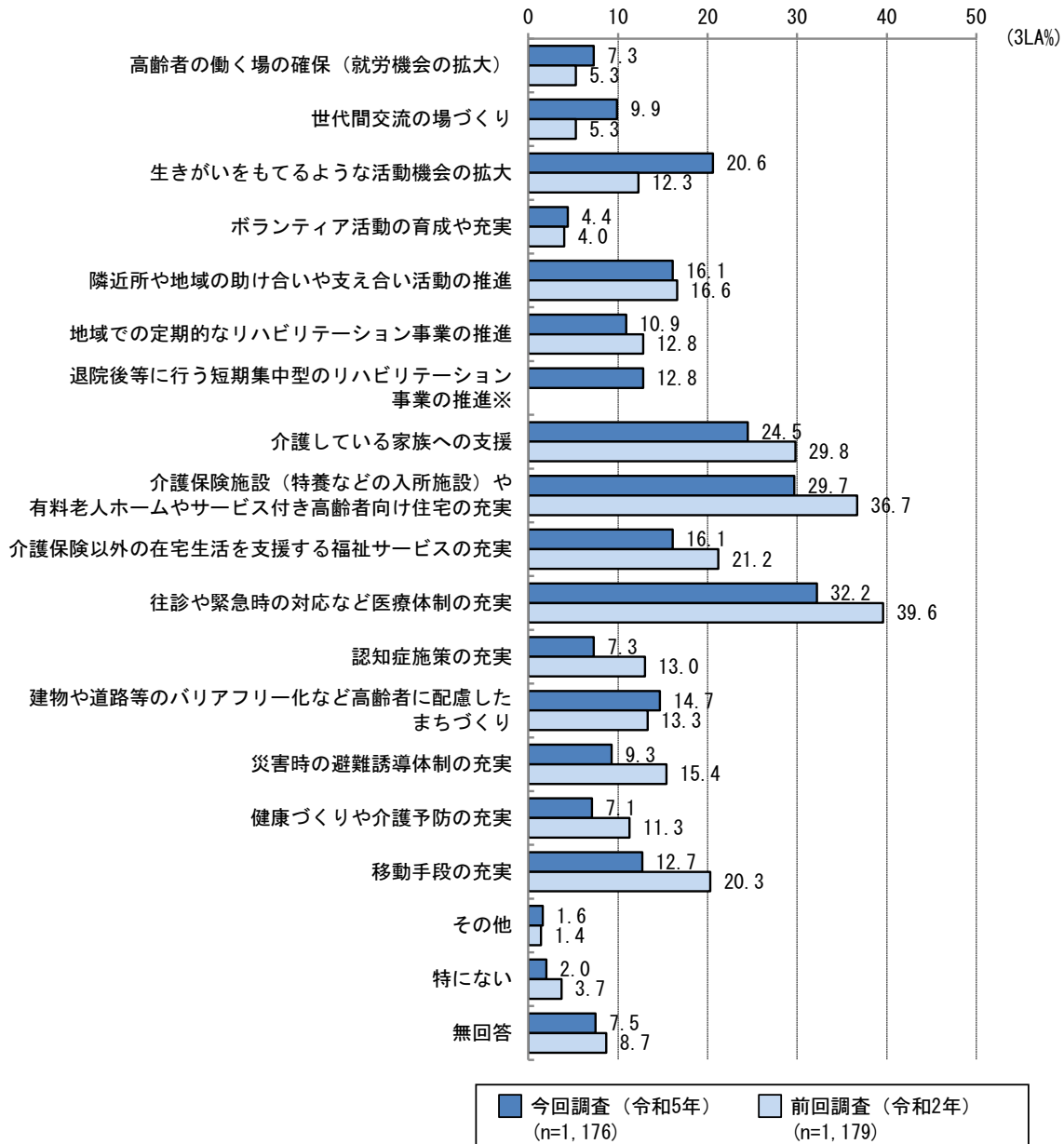
日常生活に与えた影響では、「外出機会の頻度、外食の頻度、回数」、「友人等への訪問や来訪」で「減少した」が6割前後と多くなっています。



◆高齢者への支援として必要と思うこと

【A 票 問 24:高齢者への支援として必要と思うこと】

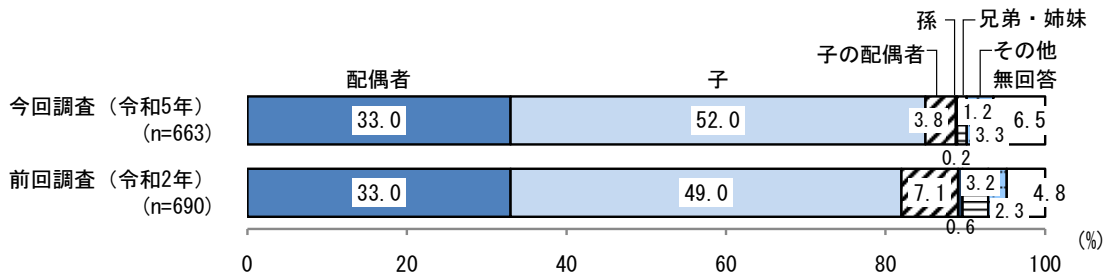
「往診や緊急時の対応など医療体制の充実」が 32.2%と最も多く、次いで、「介護保険施設（特養などの入所施設）、有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅の充実」が 29.7%、「介護している家族への支援」が 24.5%となっています。前回調査に比べて、「生きがいをもてるような活動機会の拡大」が 8.3 ポイント増加しています。



※前回調査では、選択肢なし

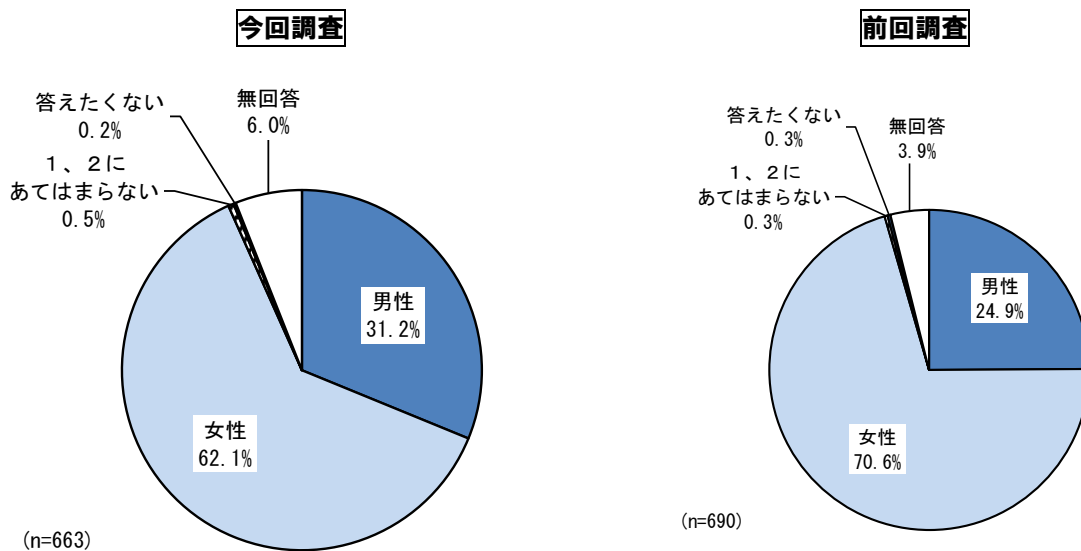
◆主な介護者の状況

【B票 問1:介護者と本人の関係】



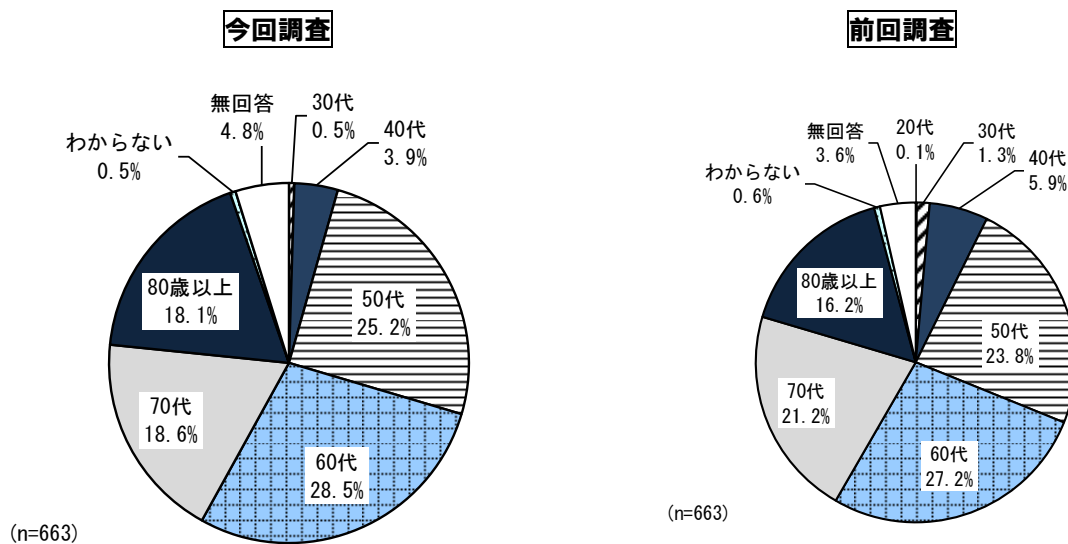
【B票 問2:性別】

主な介護者の性別は、「女性」が62.1%と多くなっていますが、前回調査に比べて「男性」が6.3ポイント増加しています。



【B票 問3:年齢】

「60代」が28.5%と最も多く、60代以上による介護が合計65.2%と半数以上を占め、80歳以上も18.1%みられます。

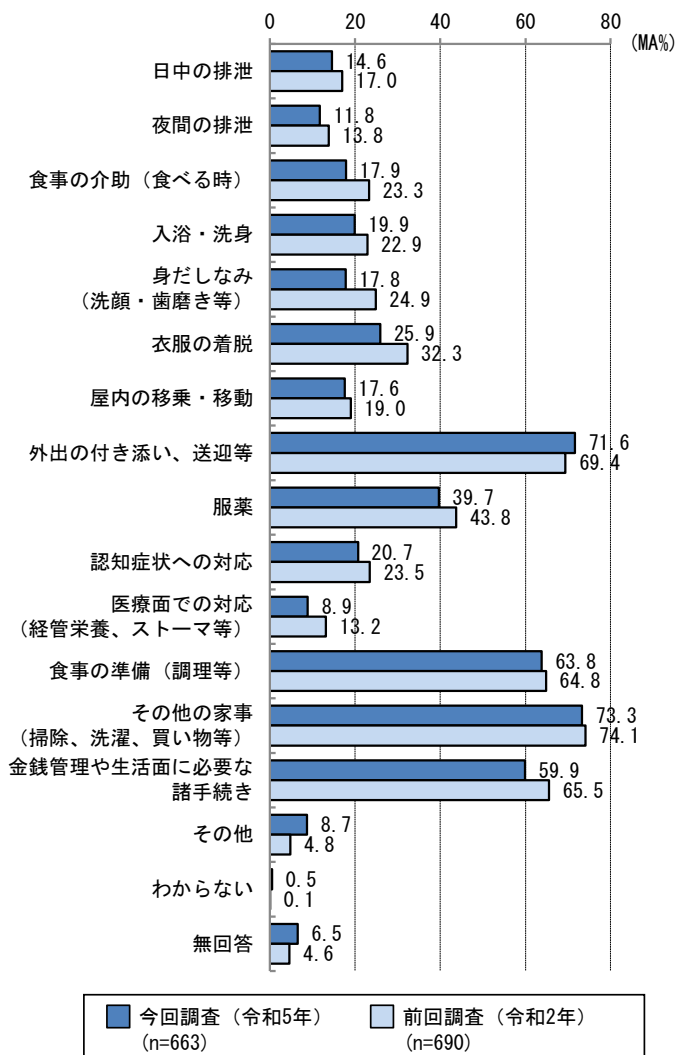


※「20歳未満」「20代」は0件のためグラフから割愛した。

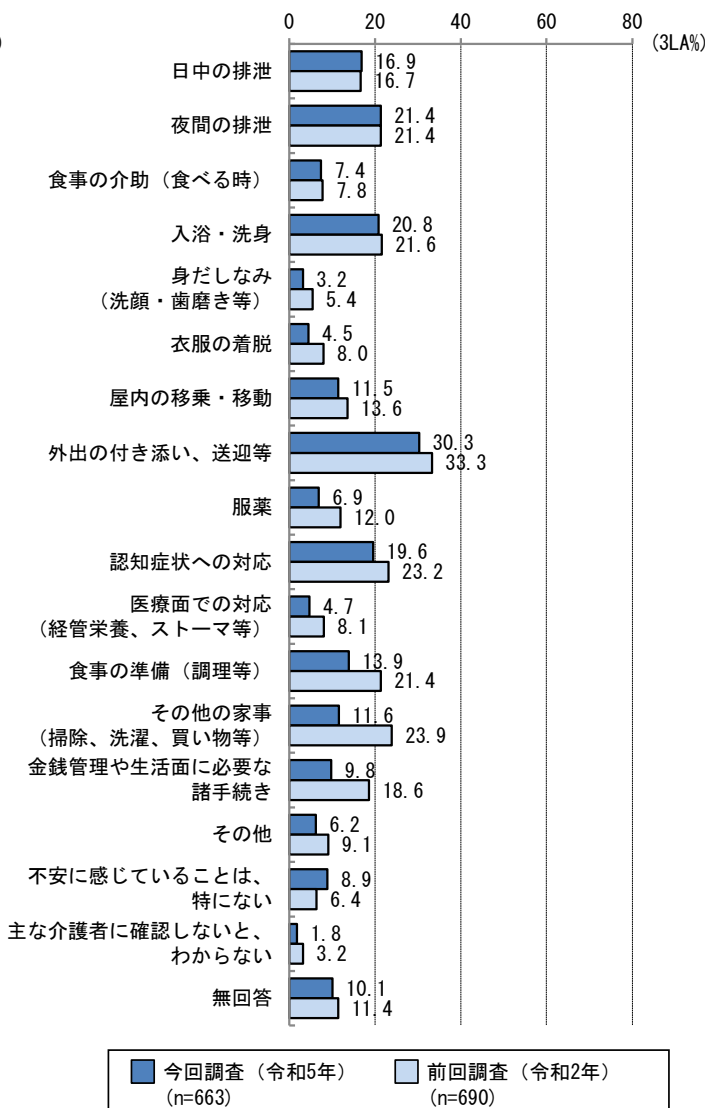
※「20歳未満」は0件のためグラフから割愛した。

◆主な介護者が行っている介護・不安に感じる介護

【B票 問4:主な介護者が行っている介護】



【B票 問6:介護者が不安に感じる介護】



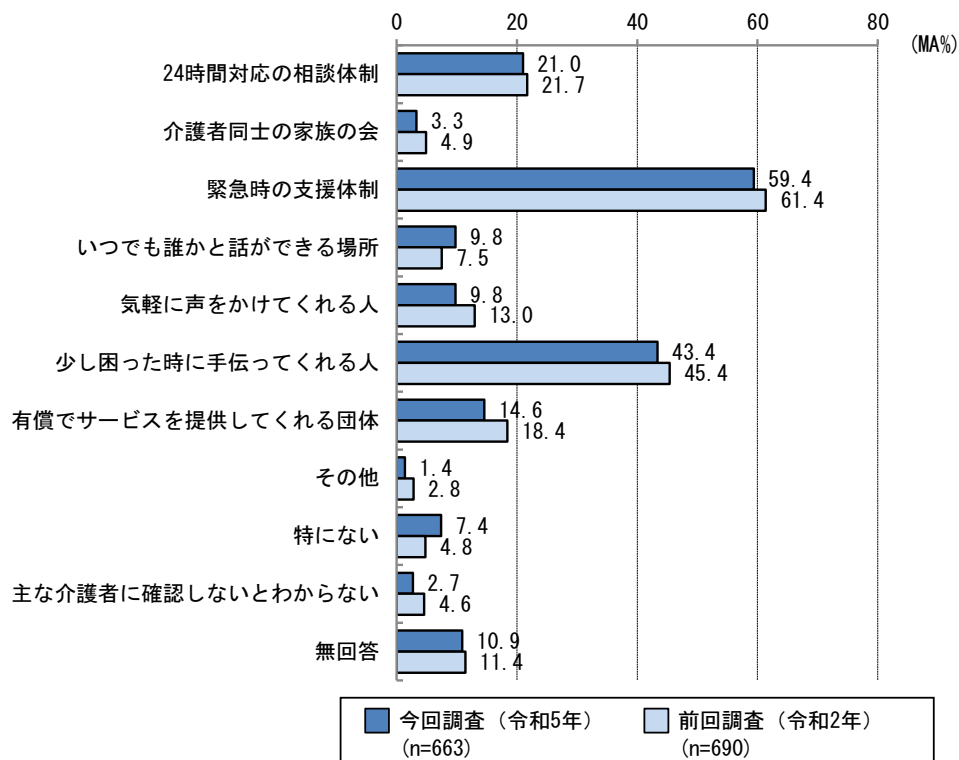
主な介護者が行っている介護は、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が73.3%と最も多く、次いで、「外出の付き添い、送迎等」が71.6%、「食事の準備（調理等）」が63.8%となっています。

在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護は、「外出の付き添い、送迎等」が30.3%と最も多く、次いで、「夜間の排泄」が21.4%、「入浴・洗身」が20.8%となっています。前回調査に比べて、「食事の準備（調理等）」が7.5ポイント、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が12.3ポイント、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が8.8ポイント減少しています。

◆在宅生活の継続のために必要と感じる地域での支援

【B票 問7:在宅生活の継続のために必要と感じる地域での支援】

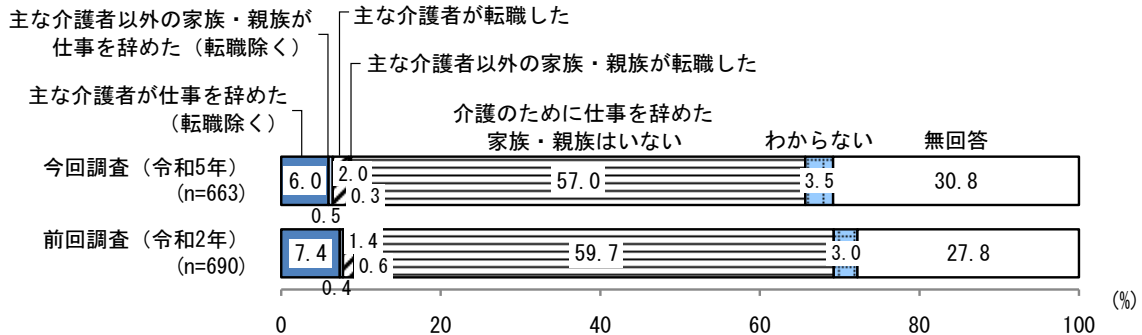
「緊急時の支援体制」が59.4%と最も多く、「少し困った時に手伝ってくれる人」が43.4%となっています。



◆主な介護者の就労について

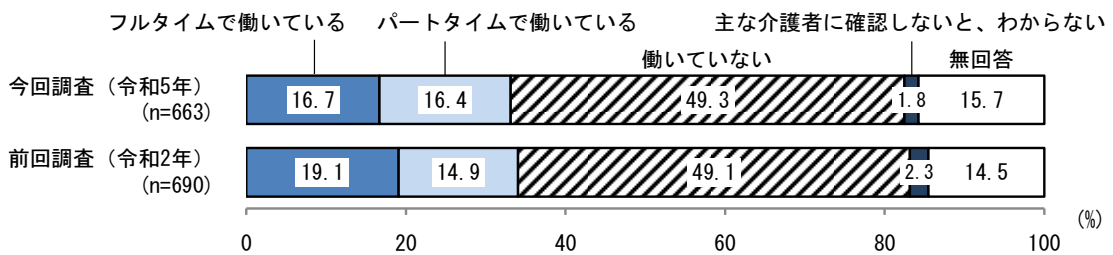
【B票 問5:介護離職の状況】

介護のために仕事を辞めた（または転職した）という介護者は合計 8.8%で、前回調査の 9.8%とほぼ同程度になっています。



【B票 問8:就業状況】

介護者の勤務形態は、「働いていない」が 49.3%と多く、「フルタイムで働いている」は 16.7%、「パートタイムで働いている」は 16.4%で、就業している介護者は合計 33.1%となっています。



【B票 問8-3:主な介護者の就労継続の可否】

主な介護者の就労継続の可否について、就労を『続けていける』は合計 74.6%となっていますが、54.1%の人が「問題はある」と回答しています。前回調査に比べて、「問題なく、続けていける」が 8.2ポイント増加しています。

